

《1. あなたの健康》

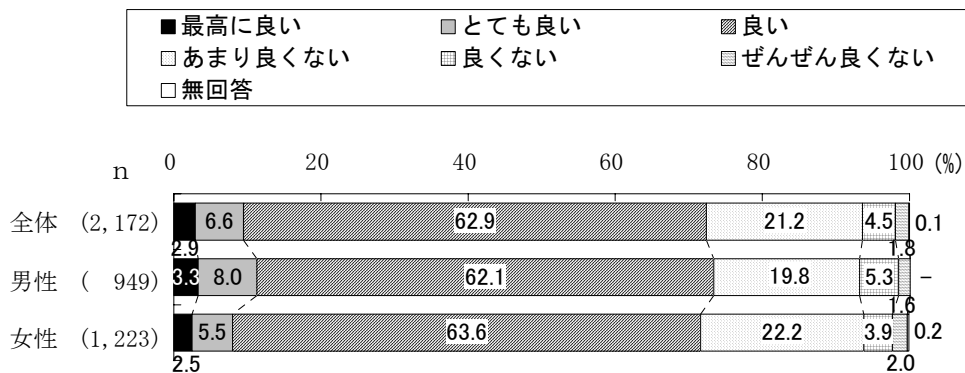
問1 健康状態

全体では、「最高に良い」が2.9%、「とても良い」が6.6%と少数ながら、「良い」が62.9%と最も高く、これら3つを合わせると、《良い》が72.4%となっている。一方、「あまり良くない」が21.2%、「良くない」が4.5%、「ぜんぜん良くない」が1.8%で、これら3つを合わせると、《良くない》は27.5%となっている。

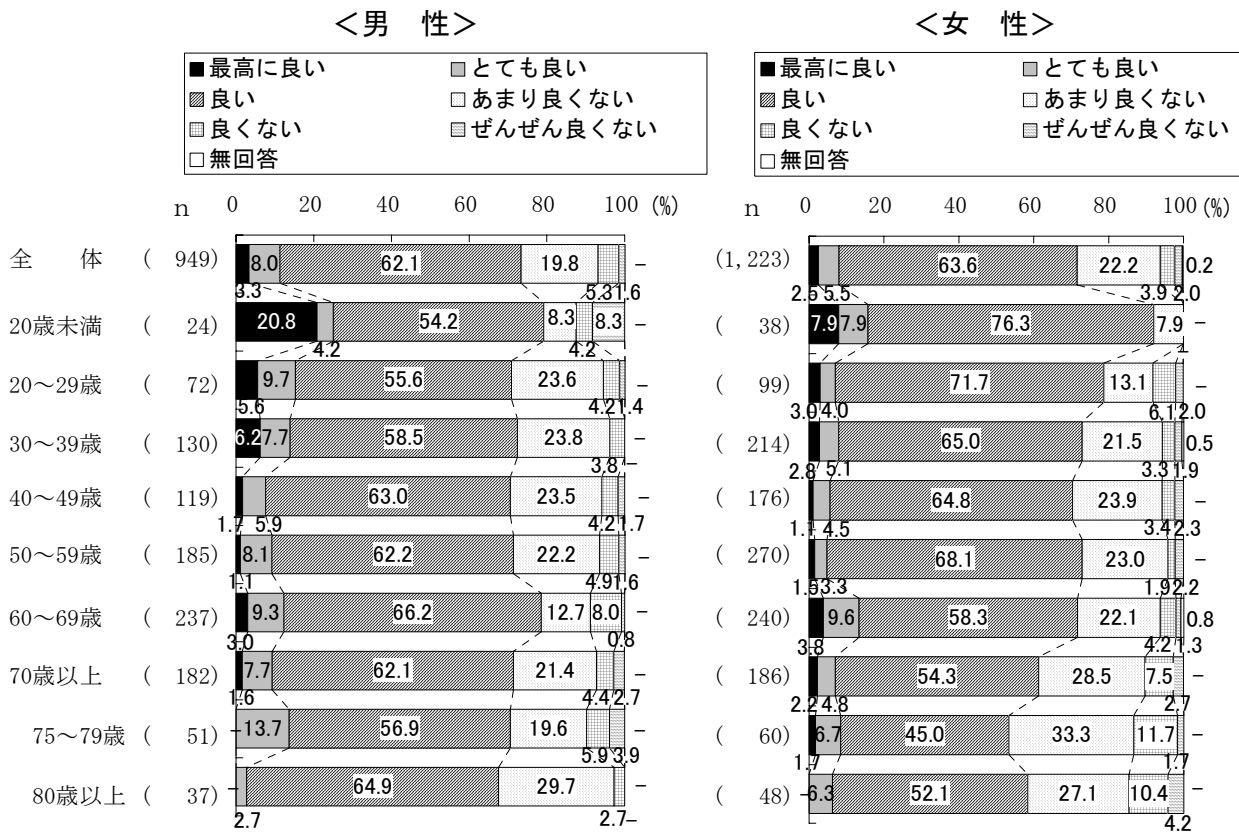
性別でみると、《良い》は男性が73.4%、女性が71.6%で、特に大きな違いはみられない。

性/年齢別でみると、《良い》は、男性では20歳未満が79.2%で最も高く、次いで60～69歳が78.5%となっている。一方、女性では20歳未満が92.1%で最も高くなっている。

問1 健康状態（全体・性別）



問1 健康状態（性/年齢別）

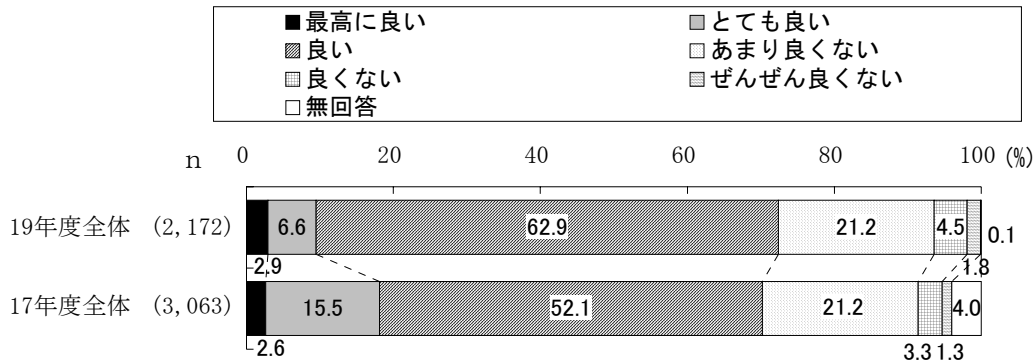


17年度調査結果と比較すると、全体では、「とても良い」（17年度：15.5%→19年度：6.6%）が8.9ポイント減少し、「良い」（17年度：52.1%→19年度：62.9%）が10.8ポイント増加している。

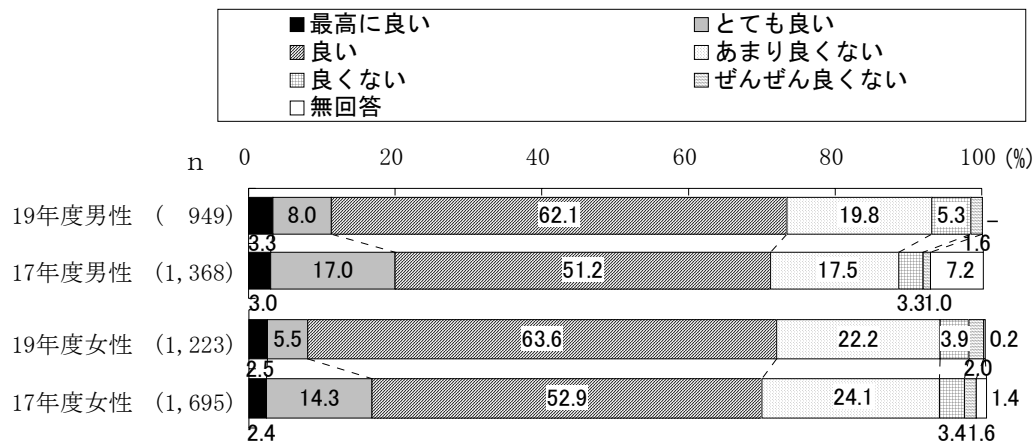
性別では、「とても良い」が、男性（17年度：17.0%→19年度：8.0%）で9.0ポイント、女性（17年度：14.3%→19年度：5.5%）で8.8ポイント減少している。逆に、「良い」が男性（17年度：51.2%→19年度：62.1%）で10.9ポイント、女性（17年度：52.9%→19年度：63.6%）で10.7ポイント増加している。

【平成17年度調査との比較】

健康状態（全体）



健康状態（性別）



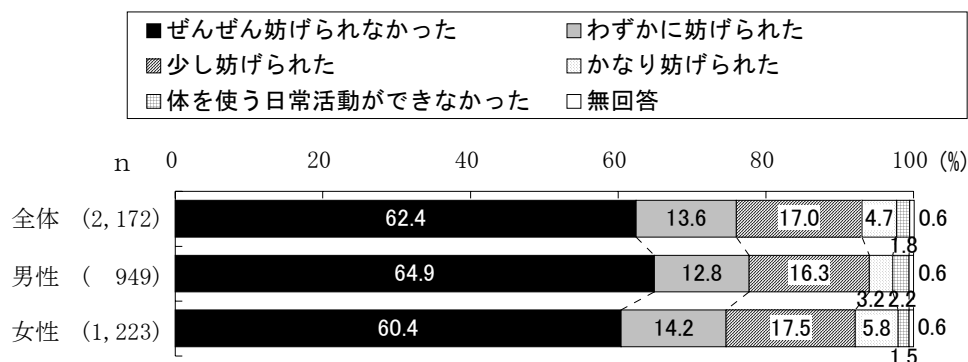
問2 身体的な理由で体を使う日常活動が妨げられた有無

全体では、「ぜんぜん妨げられなかった」が62.4%で最も高くなっている。一方、「わずかに妨げられた」は13.6%、「少し妨げられた」は17.0%、「かなり妨げられた」は4.7%、「体を使う日常活動ができなかった」は1.8%で、これら4つを合わせると、「妨げられた」は37.1%となっている。

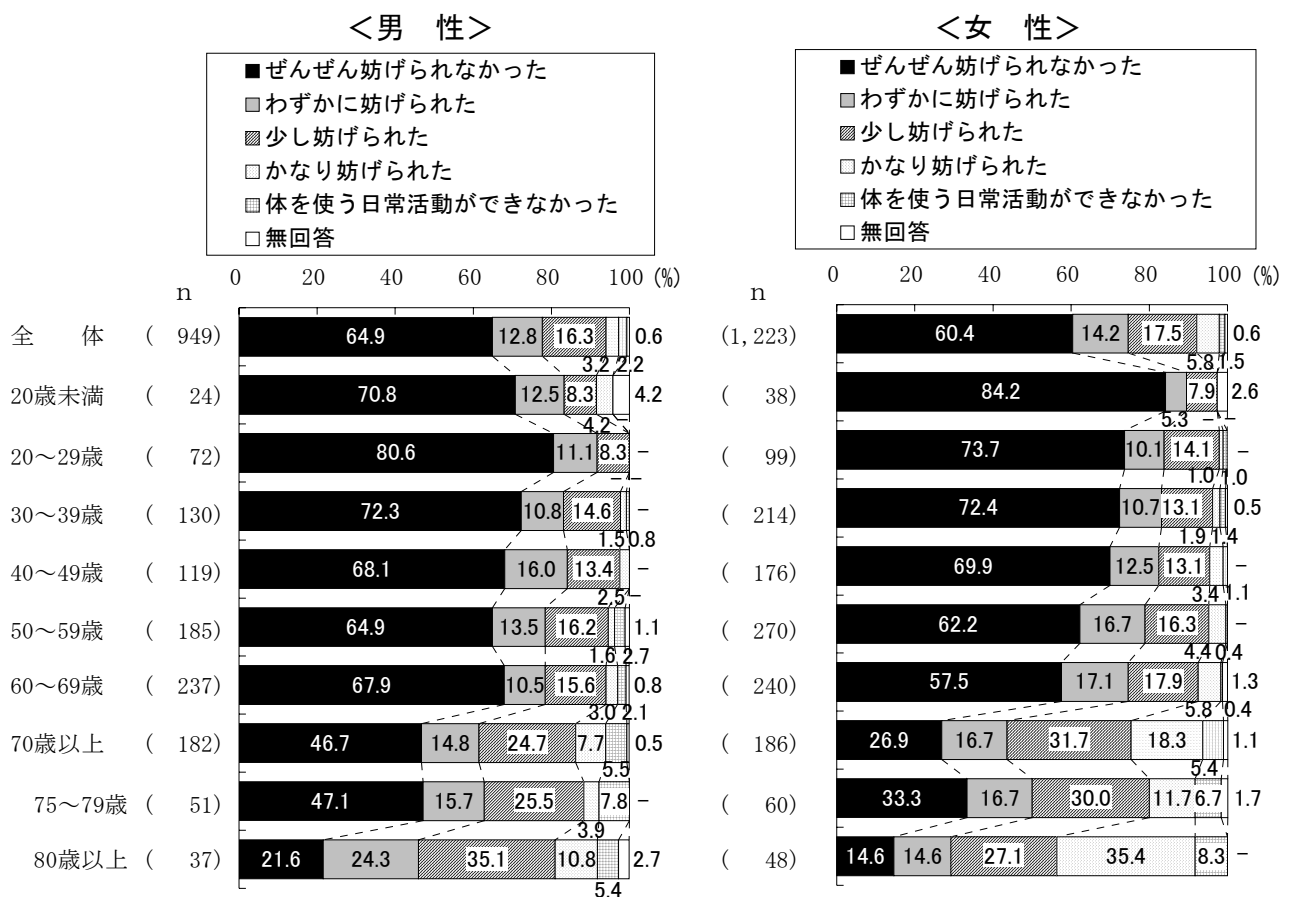
性別でみると、「ぜんぜん妨げられなかった」は、男性が64.9%、女性が60.4%で男性の方が4.5ポイント高くなっている。逆に、「妨げられた」は、男性が34.5%、女性が39.0%で女性の方が4.5ポイント高くなっている。

性/年齢別でみると、「ぜんぜん妨げられなかった」は、男性では20～29歳が80.6%で最も高くなっている。一方、女性では20歳未満が84.2%で最も高く、年齢が上がるほど減少している。また、「妨げられた」として見た場合、女性の70歳以上が72.1%で高くなっている。

問2 身体的な理由で体を使う日常活動が妨げられた有無（全体・性別）



問2 身体的な理由で体を使う日常活動が妨げられた有無（性/年齢別）

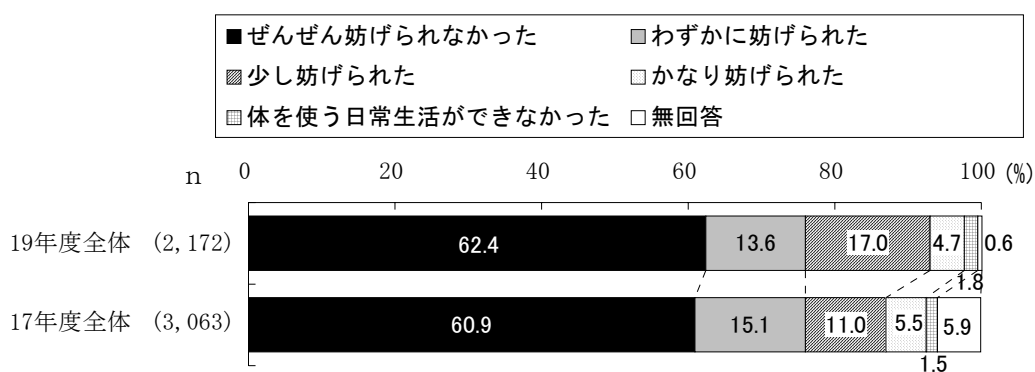


17年度調査結果と比較すると、全体では、「少し妨げられた」（17年度：11.0%→19年度：17.0%）が6.0ポイント増加している。

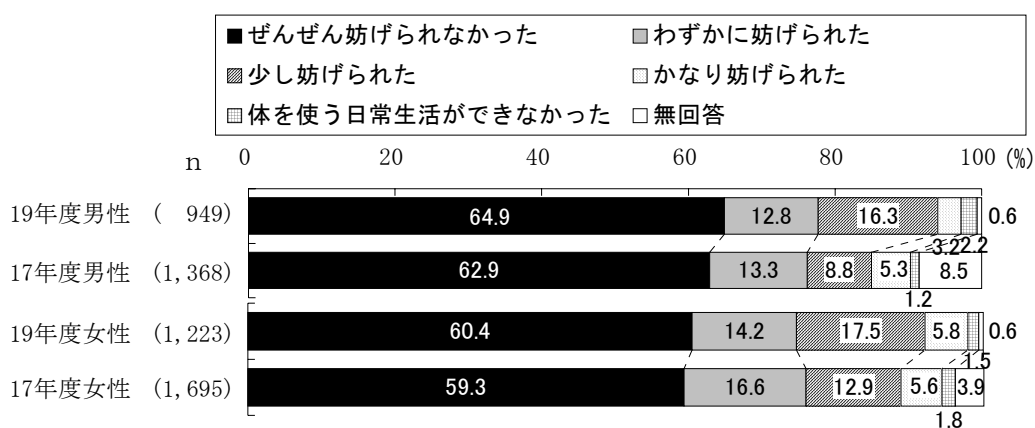
性別では、「少し妨げられた」が男性（17年度：8.8%→19年度：16.3%）で7.5ポイント増加し、女性（17年度：12.9%→19年度：17.5%）で4.6ポイント増加している。

【平成17年度調査との比較】

身体的な理由で体を使う日常活動が妨げられた有無（全体）



身体的な理由で体を使う日常活動が妨げられた有無（性別）



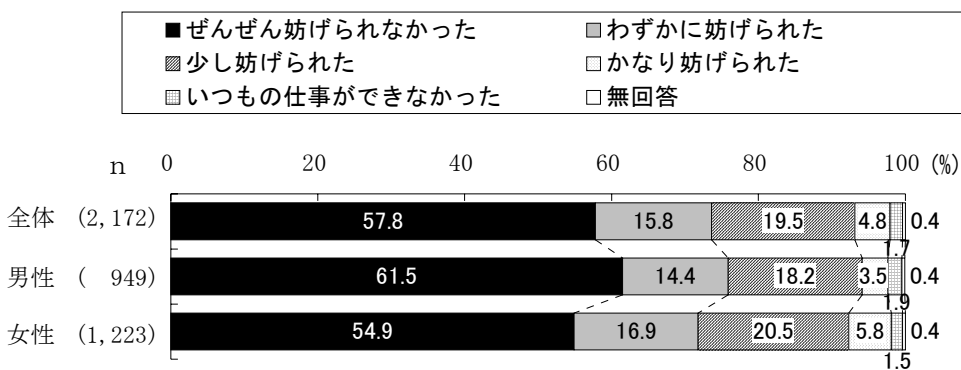
問3 身体的な理由でいつもの仕事をする事が妨げられた有無

全体では、「ぜんぜん妨げられなかった」が57.8%で最も高くなっている。一方、「わずかに妨げられた」が15.8%、「少し妨げられた」が19.5%、「かなり妨げられた」が4.8%、「いつもの仕事ができなかった」が1.7%で、これら4つを合わせると、「妨げられた」は41.8%となっている。

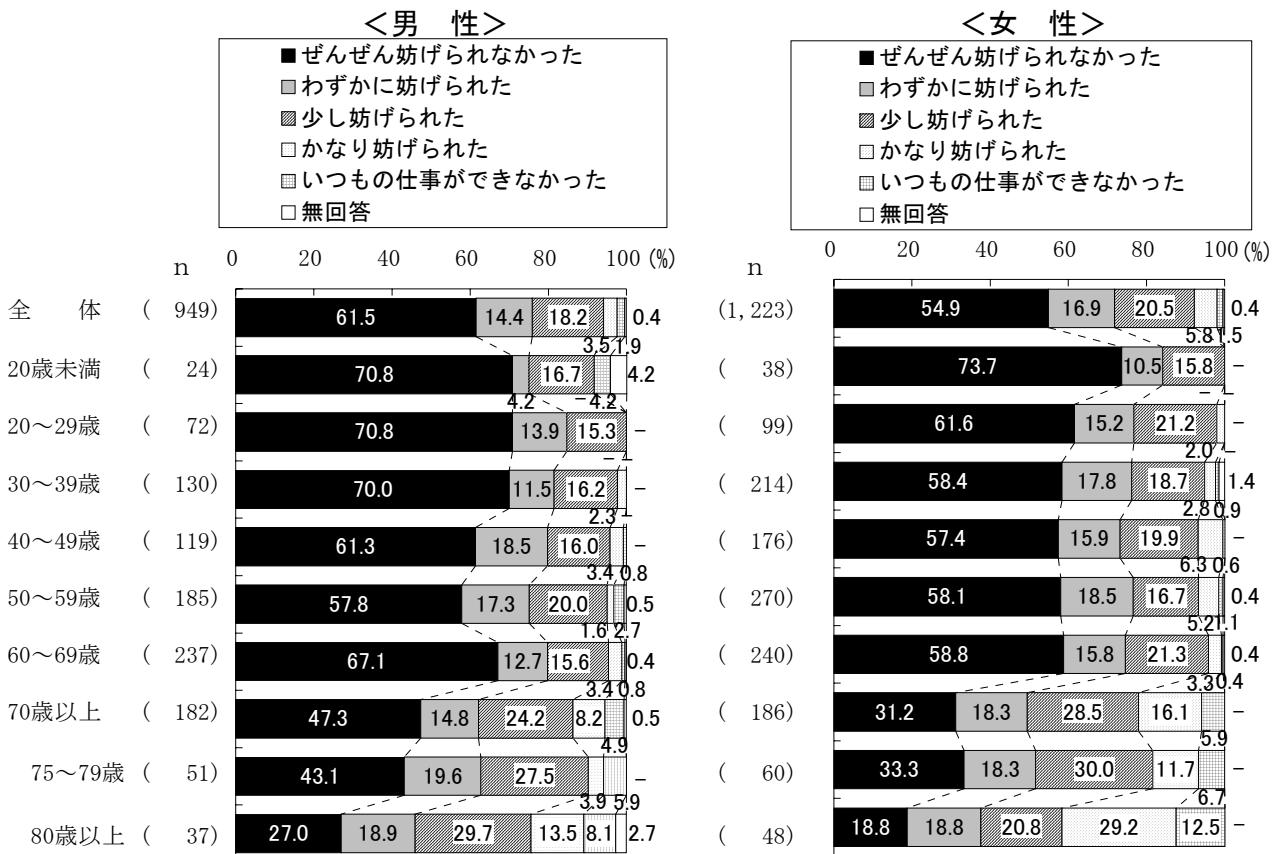
性別でみると、「ぜんぜん妨げられなかった」は、男性が61.5%、女性が54.9%で男性の方が6.6ポイント高くなっている。逆に、「妨げられた」は、男性が38.0%、女性が44.7%と、女性の方が6.7ポイント高くなっている。

性/年齢別でみると、「ぜんぜん妨げられなかった」は、男性では20歳未満と20～29歳が70.8%、30～39歳が70.0%などとなっている。一方、女性では20歳未満が73.7%で最も高くなっている。また、「妨げられた」としてみた場合、女性の70歳以上が68.8%で高くなっている。

問3 身体的な理由でいつもの仕事をする事が妨げられた有無（全体・性別）



問3 身体的な理由でいつもの仕事をする事が妨げられた有無（性/年齢別）

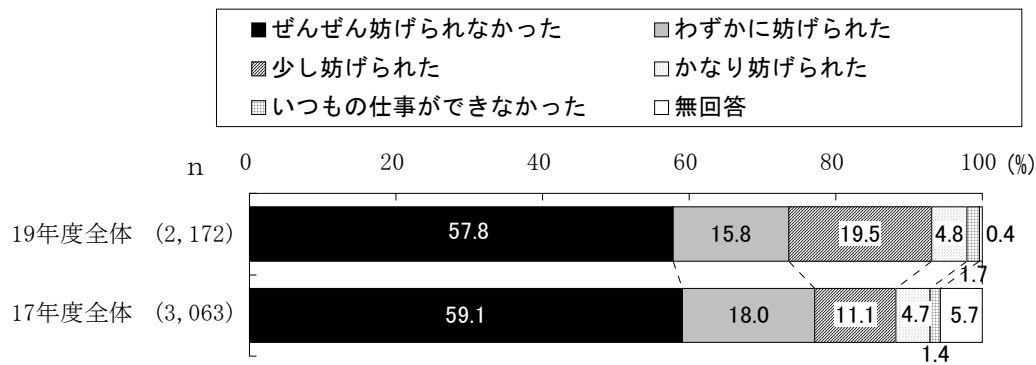


17年度調査結果と比較すると、全体では、「少し妨げられた」（17年度：11.1%→19年度：19.5%）が8.4ポイント増加している。

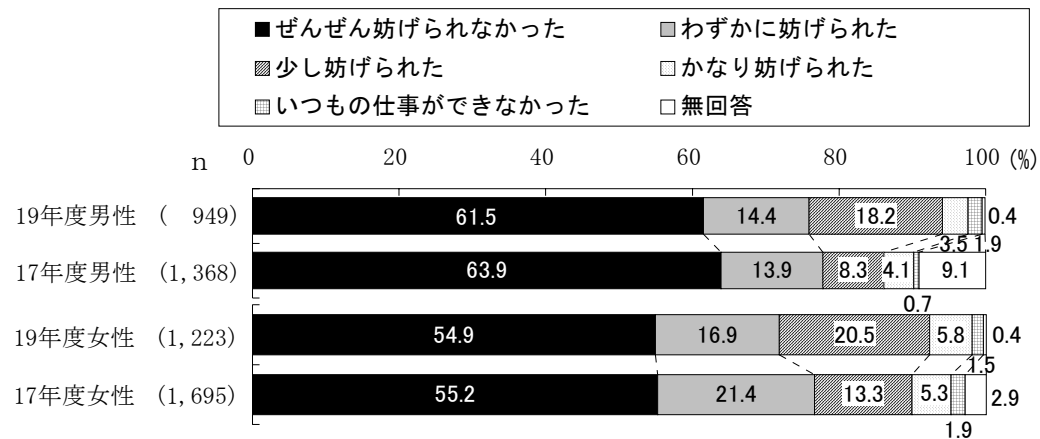
性別では、「少し妨げられた」が、男性（17年度：8.3%→19年度：18.2%）で9.9ポイント増加し、女性（17年度：13.3%→19年度：20.5%）で7.2ポイント増加している。

【平成17年度調査との比較】

身体的な理由でいつもの仕事をすることが妨げられた有無（全体）



身体的な理由でいつもの仕事をすることが妨げられた有無（性別）



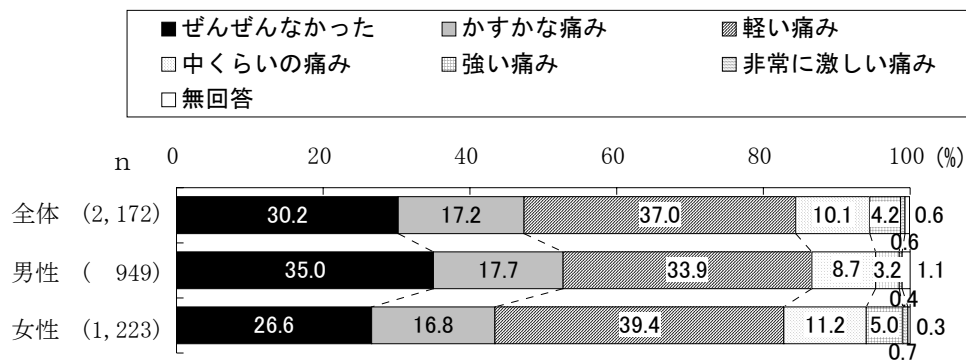
問4 体の痛みの程度

全体では、「ぜんぜんなかった」が30.2%となっている。一方、「軽い痛み」が37.0%で最も高く、「かすかな痛み」が17.2%、「中くらいの痛み」が10.1%、「強い痛み」が4.2%、「非常に激しい痛み」が0.6%で、これら5つを合わせると、「痛みがあった」は69.1%となっている。

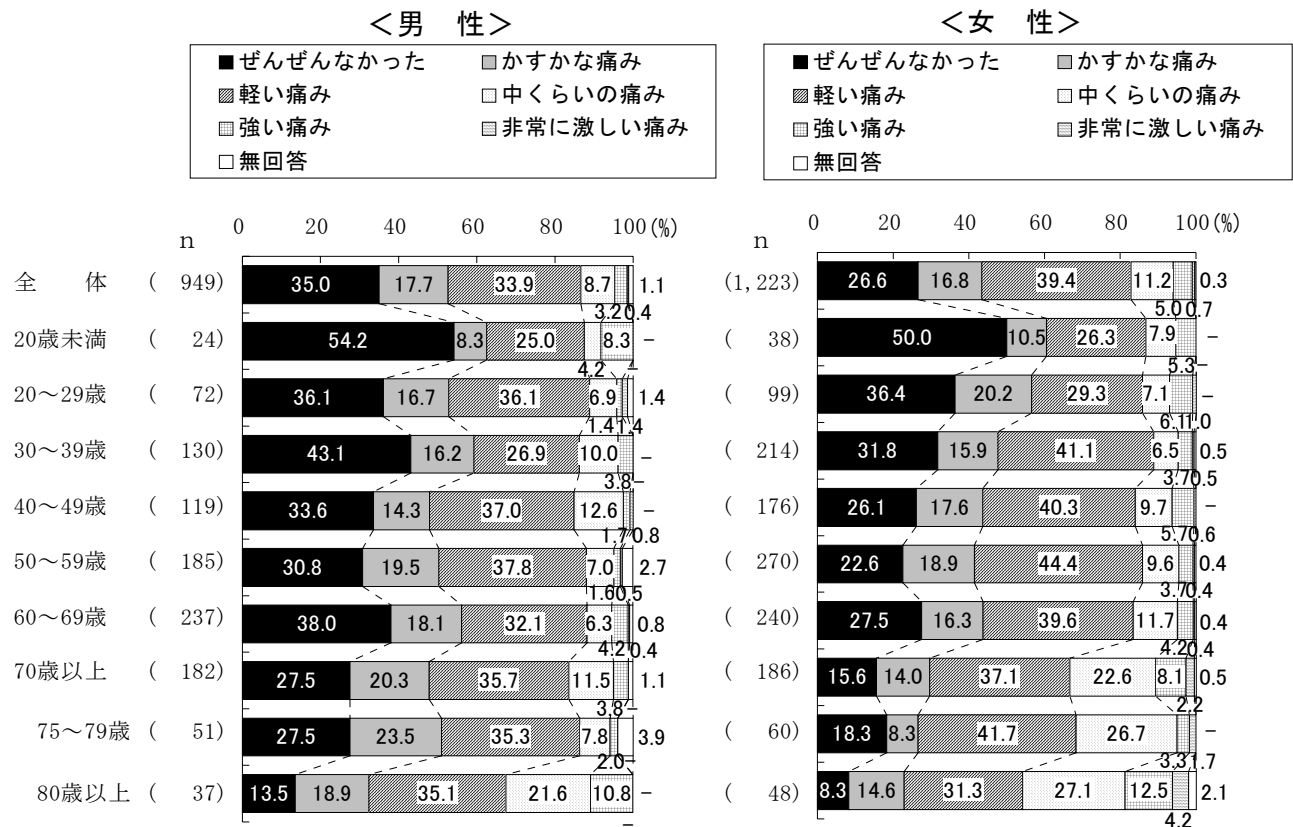
性別でみると、「ぜんぜんなかった」は、男性が35.0%、女性が26.6%で男性の方が8.4ポイント高くなっている。逆に、「軽い痛み」は、男性が33.9%、女性が39.4%と、女性の方が5.5ポイント高くなっている。

性/年齢別でみると、「ぜんぜんなかった」は、男性の20歳未満が54.2%、女性の20歳未満が50.0%で高くなっている。

問4 体の痛みの程度（全体・性別）



問4 体の痛みの程度（性/年齢別）

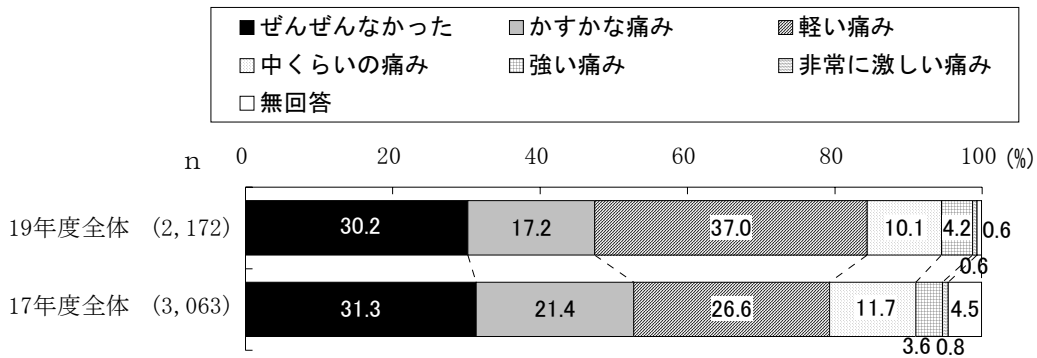


17年度調査結果と比較すると、全体では、「軽い痛み」（17年度：26.6%→19年度：37.0%）が10.4ポイント増加し、逆に、「かすかな痛み」（17年度：21.4%→19年度：17.2%）が3.8ポイント減少している。

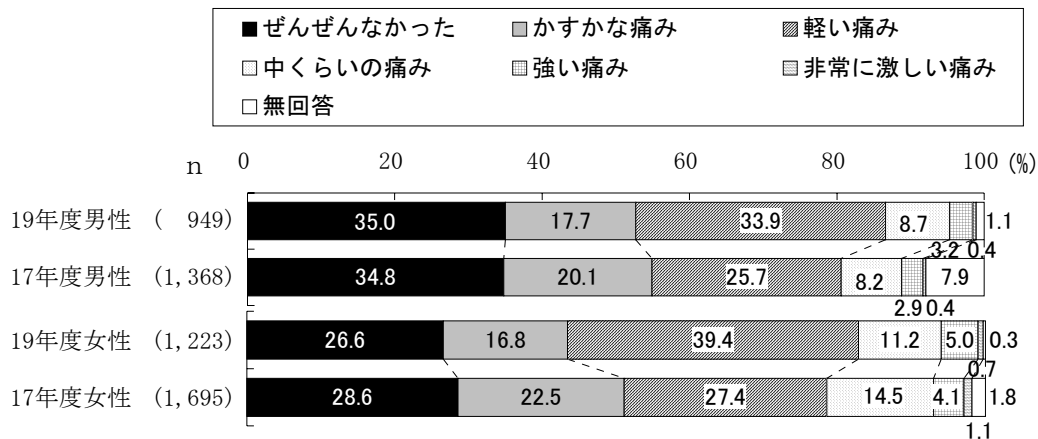
性別では、「軽い痛み」が、男性（17年度：25.7%→19年度：33.9%）で8.2ポイント増加し、女性（17年度：27.4%→19年度：39.4%）で12.0ポイント増加している。また、「かすかな痛み」は、女性（17年度：22.5%→19年度：16.8%）で5.7ポイント減少している。

【平成17年度調査との比較】

体の痛みの程度（全体）



体の痛みの程度（性別）



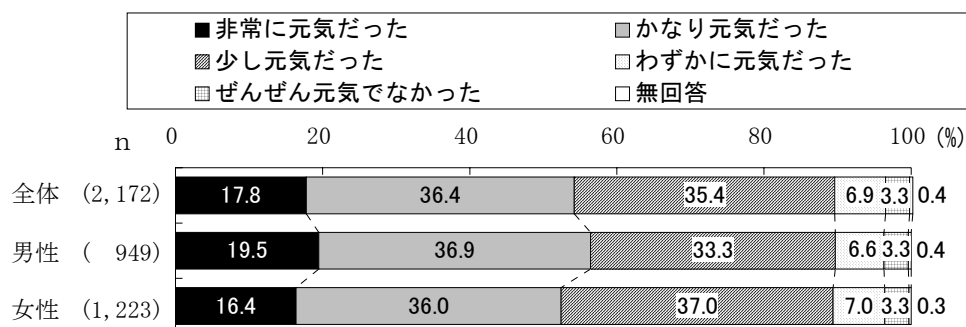
問5 元気の度合い

全体では、「非常に元気だった」が17.8%で、「かなり元気だった」が36.4%で最も高くなっている。このほか、「少し元気だった」が35.4%、「わずかに元気だった」が6.9%、「ぜんぜん元気でなかった」が3.3%となっている。

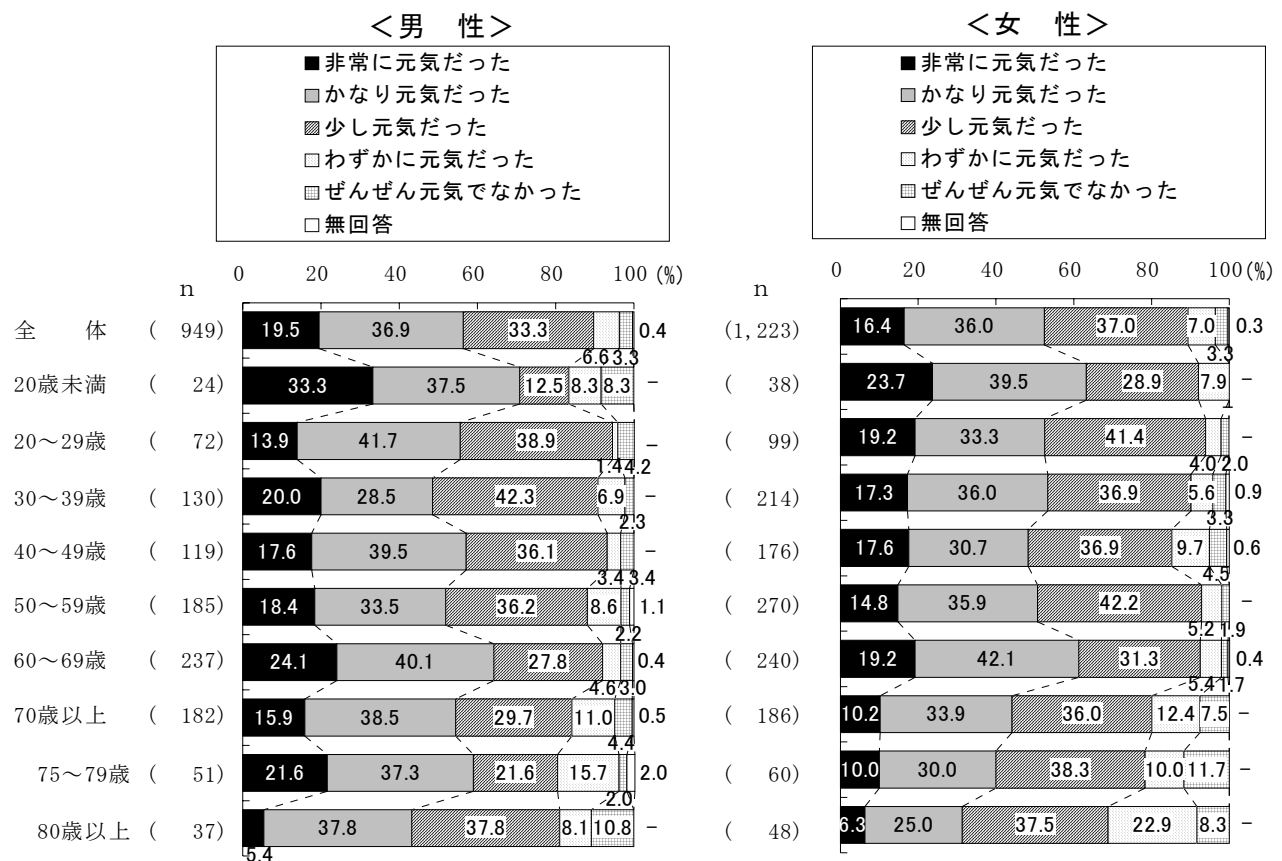
性別でみると、「非常に元気だった」+「かなり元気だった」は、男性が56.4%、女性が52.4%で男性の方が4.0ポイント高くなっている。逆に、「少し元気だった」は、男性が33.3%、女性が37.0%と、女性の方が3.7ポイント高くなっている。

性/年齢別でみると、「非常に元気だった」+「かなり元気だった」は、男性では20歳未満が70.8%で最も高く、次いで60～69歳が64.2%となっている。一方、女性でも同年齢層が高く、20歳未満が63.2%、60～69歳が61.3%となっている。

問5 元気の度合い（全体・性別）



問5 元気の度合い（性/年齢別）

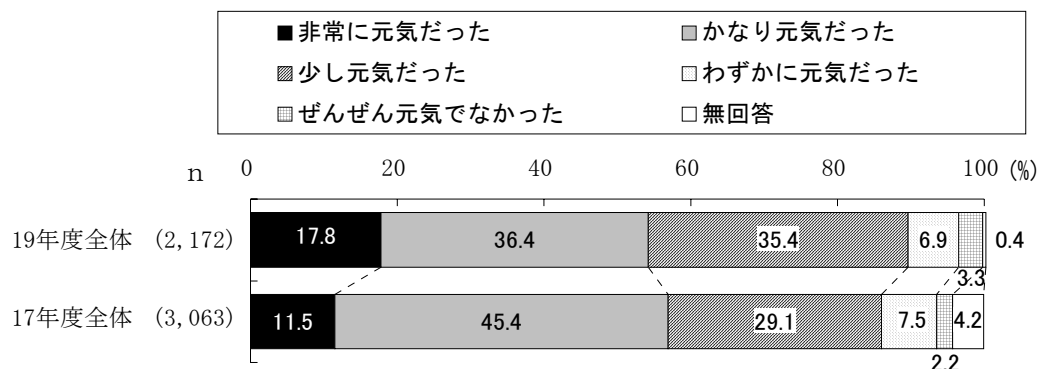


17年度調査結果と比較すると、全体では、「非常に元気だった」(17年度：11.5%→19年度：17.8%)が6.3ポイント増加しているものの、逆に、「かなり元気だった」(17年度：45.4%→19年度：36.4%)が9.0ポイント減少している。

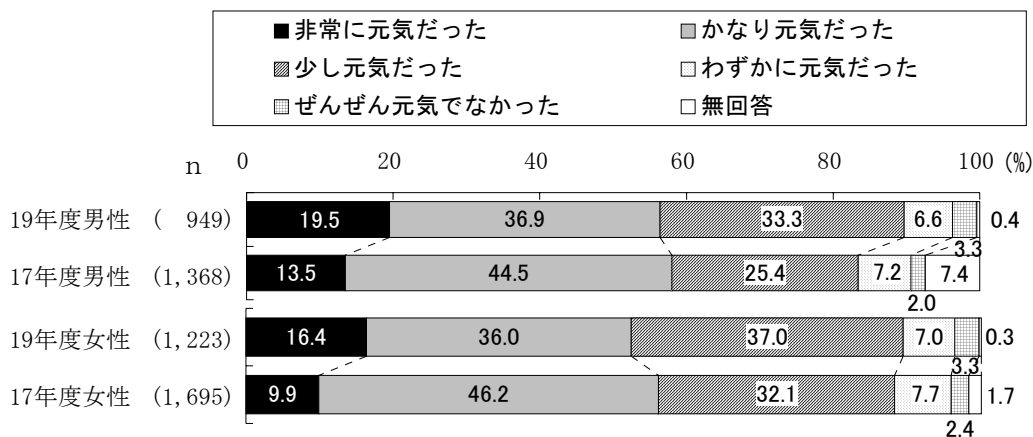
性別では、男性は、「非常に元気だった」(17年度：13.5%→19年度：19.5%)で6.0ポイント増加し、「かなり元気だった」(17年度：44.5%→19年度：36.9%)が7.6ポイント減少している。一方、女性は、「非常に元気だった」(17年度：9.9%→19年度：16.4%)が6.5ポイント増加し、「かなり元気だった」(17年度：46.2%→19年度：36.0%)が10.2ポイント減少している。

【平成17年度調査との比較】

元気の度合い（全体）



元気の度合い（性別）



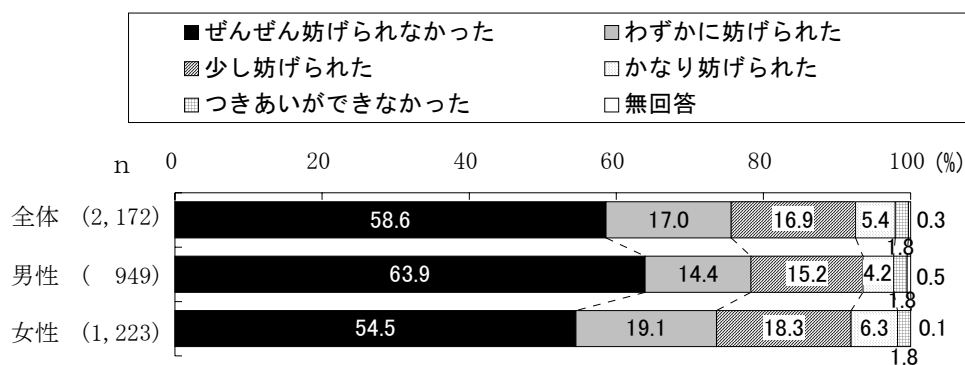
問6 身体的等の理由で家族や友人とのつきあいが妨げられた有無

全体では、「ぜんぜん妨げられなかった」が58.6%で最も高くなっている。一方、「わずかに妨げられた」が17.0%、「少し妨げられた」が16.9%、「かなり妨げられた」が5.4%、「つきあいができなかった」が1.8%で、これら4つを合わせると、「妨げられた」は41.1%となっている。

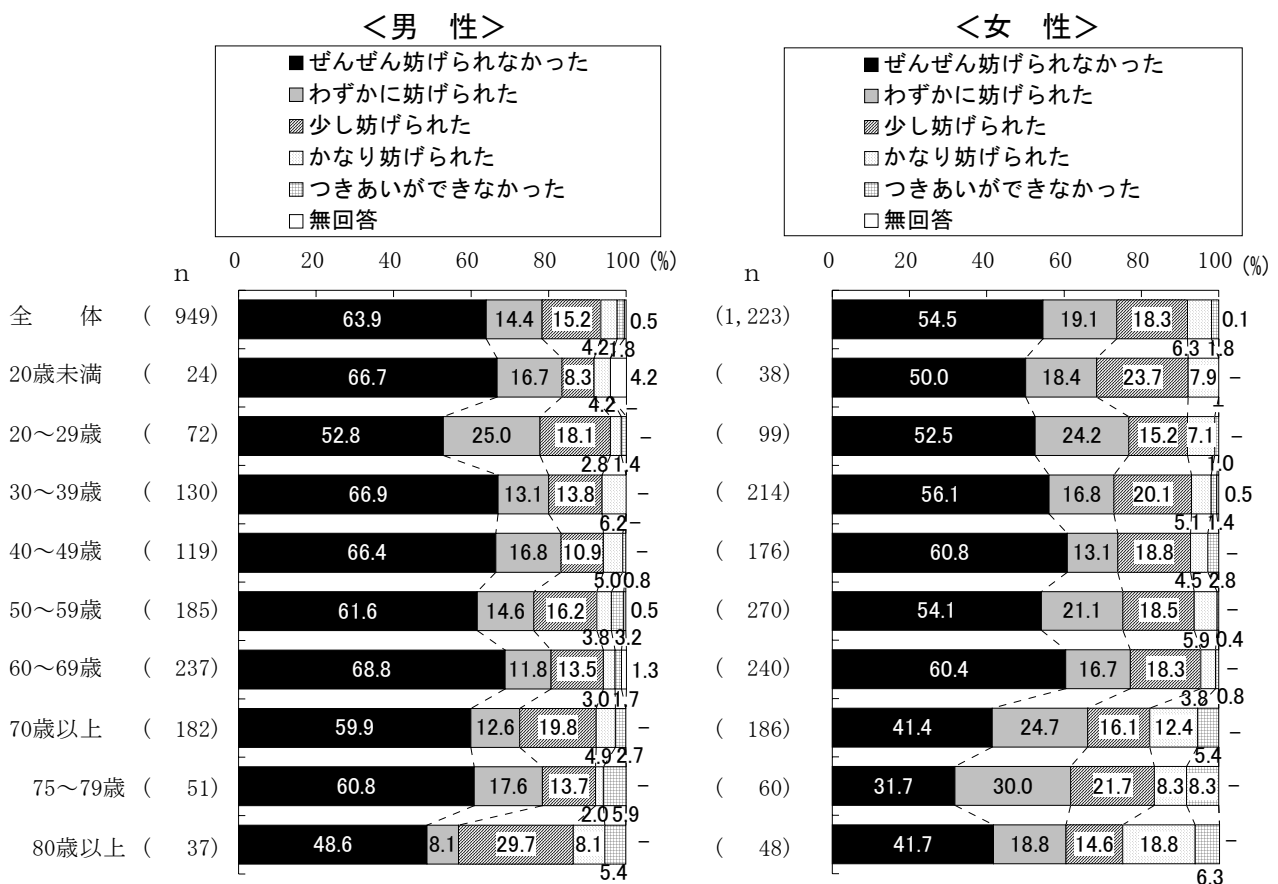
性別でみると、「ぜんぜん妨げられなかった」は、男性が63.9%、女性が54.5%で男性の方が9.4ポイント高くなっている。逆に、「妨げられた」は、男性が35.6%、女性が45.5%と、女性が9.9ポイント高くなっている。

性/年齢別でみると、「ぜんぜん妨げられなかった」は、男性では60～69歳が68.8%で最も高くなっている。一方、女性では40～49歳が60.8%、60～69歳が60.4%で高くなっている。逆に、「妨げられた」として見た場合、女性の70歳以上が58.6%で高くなっている。

問6 身体的等の理由で家族や友人とのつきあいが妨げられた有無（全体・性別）



問6 身体的等の理由で家族や友人とのつきあいが妨げられた有無（性/年齢別）

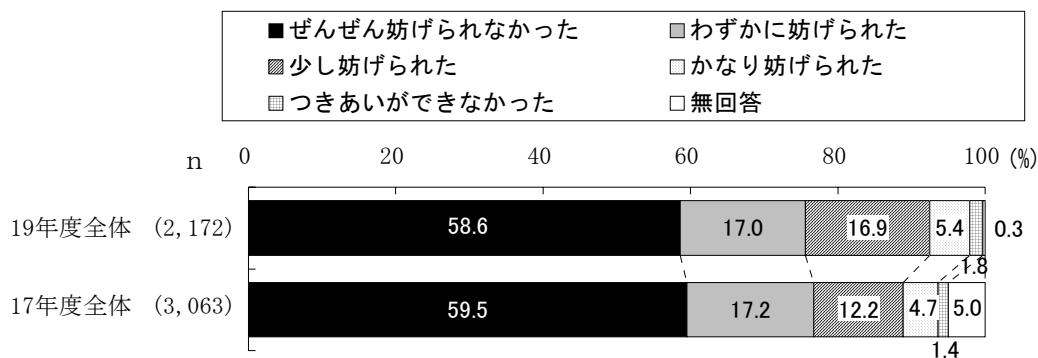


17年度調査結果と比較すると、全体では、「少し妨げられた」（17年度：12.2%→19年度：16.9%）が4.7ポイント増加している。

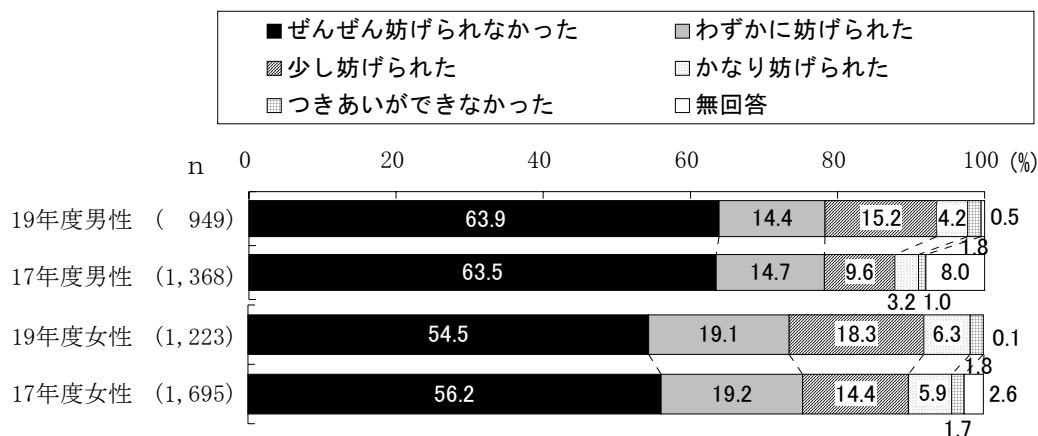
性別では、「少し妨げられた」が男性（17年度：9.6%→19年度：15.2%）で5.6ポイント増加し、女性（17年度：14.4%→19年度：18.3%）で3.9ポイント増加している。《妨げられた》としてみた場合、男性（17年度：28.5%→19年度：35.6%）は7.1ポイント、女性（17年度：41.2%→19年度：45.5%）は4.3ポイント増加している。

【平成17年度調査との比較】

身体的等の理由で家族や友人とのつきあいが妨げられた有無（全体）



身体的等の理由で家族や友人とのつきあいが妨げられた有無（性別）



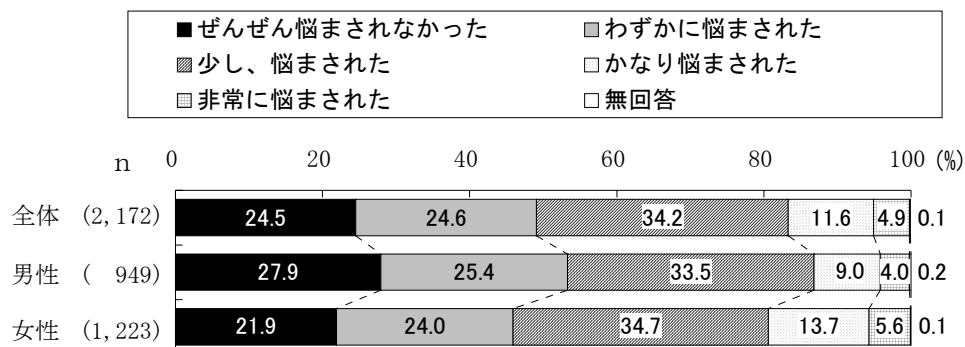
問7 心理的な問題の程度

全体では、「ぜんぜん悩まされなかった」が24.5%となっている。一方、「少し、悩まされた」が34.2%で最も高く、「わずかに悩まされた」が24.6%、「かなり悩まされた」が11.6%「非常に悩まされた」が4.9%で、これら4つを合わせると、「悩まされた」は75.3%となっている。

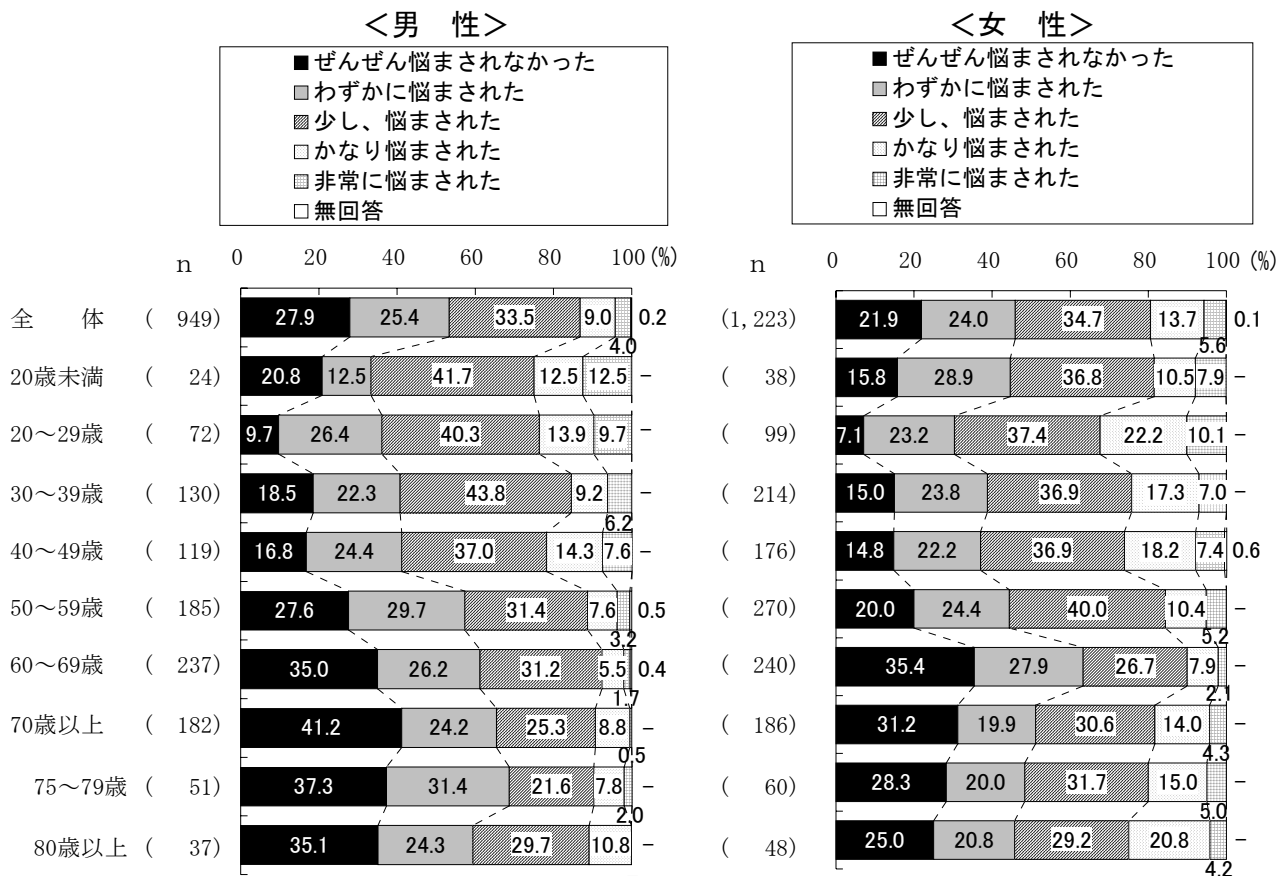
性別でみると、「ぜんぜん悩まされなかった」は、男性が27.9%、女性が21.9%で男性の方が6.0ポイント高くなっている。逆に、「悩まされた」は、男性が71.9%、女性が78.0%で女性の方が6.1ポイント高くなっている。

性/年齢別でみると、「ぜんぜん悩まされなかった」は、男性では70歳以上が41.2%で最も高くなっている。一方、女性では60～69歳が35.4%で最も高くなっている。逆に、「悩まされた」としてみた場合、男性では20～29歳で90.3%、女性でも20～29歳で92.9%と高くなっている。

問7 心理的な問題の程度（全体・性別）



問7 心理的な問題の程度（性/年齢別）

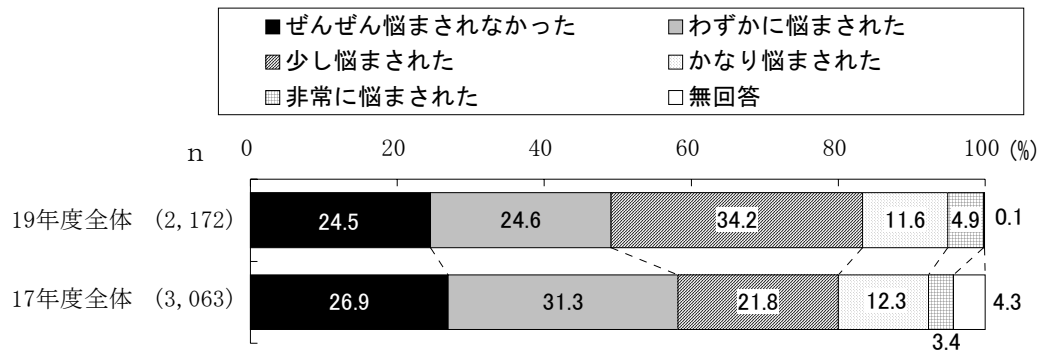


17年度調査結果と比較すると、全体では、《悩まされた》（17年度：68.8%→19年度：75.3%）が6.5ポイント増加している。

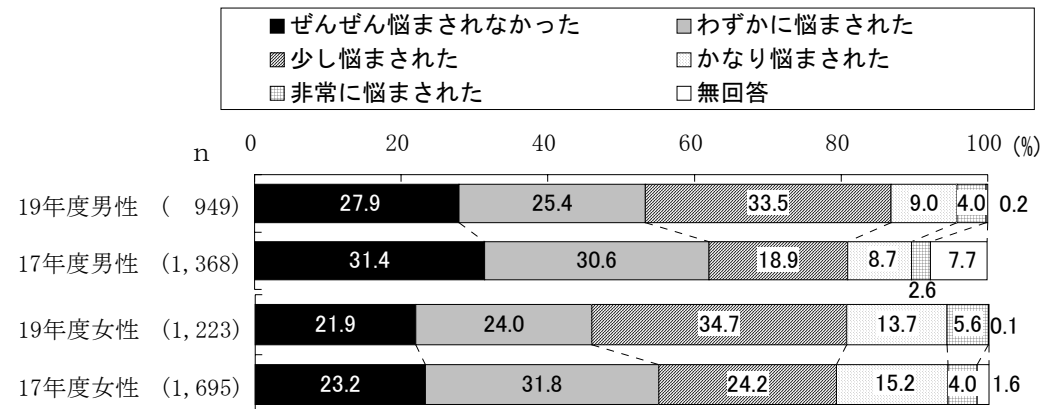
性別では、《悩まされた》が、男性（17年度：60.8%→19年度：71.9%）で11.1ポイント増加している。

【平成17年度調査との比較】

心理的な問題の程度（全体）



心理的な問題の程度（性別）



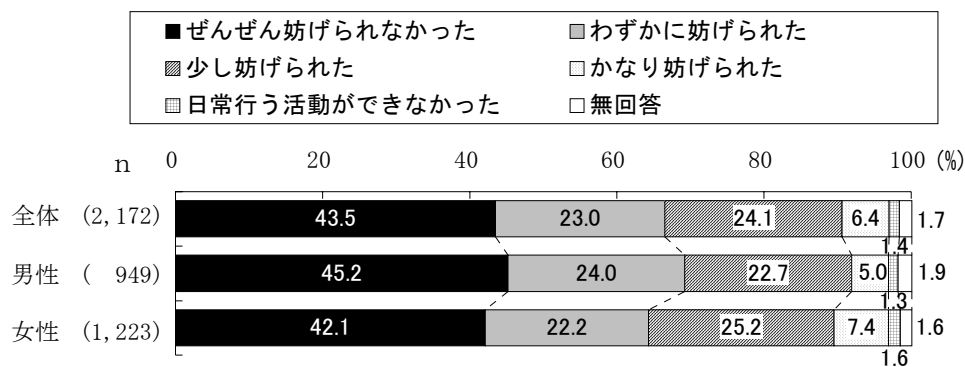
問 8 心理的な理由で日常行う仕事が妨げられた有無

全体では、「ぜんぜん妨げられなかった」が43.5%で最も高くなっている。一方、「わずかに妨げられた」が23.0%、「少し妨げられた」が24.1%、「かなり妨げられた」が6.4%、「日常行う活動ができなかった」が1.4%で、これら4つを合わせると、「妨げられた」は54.9%となっている。

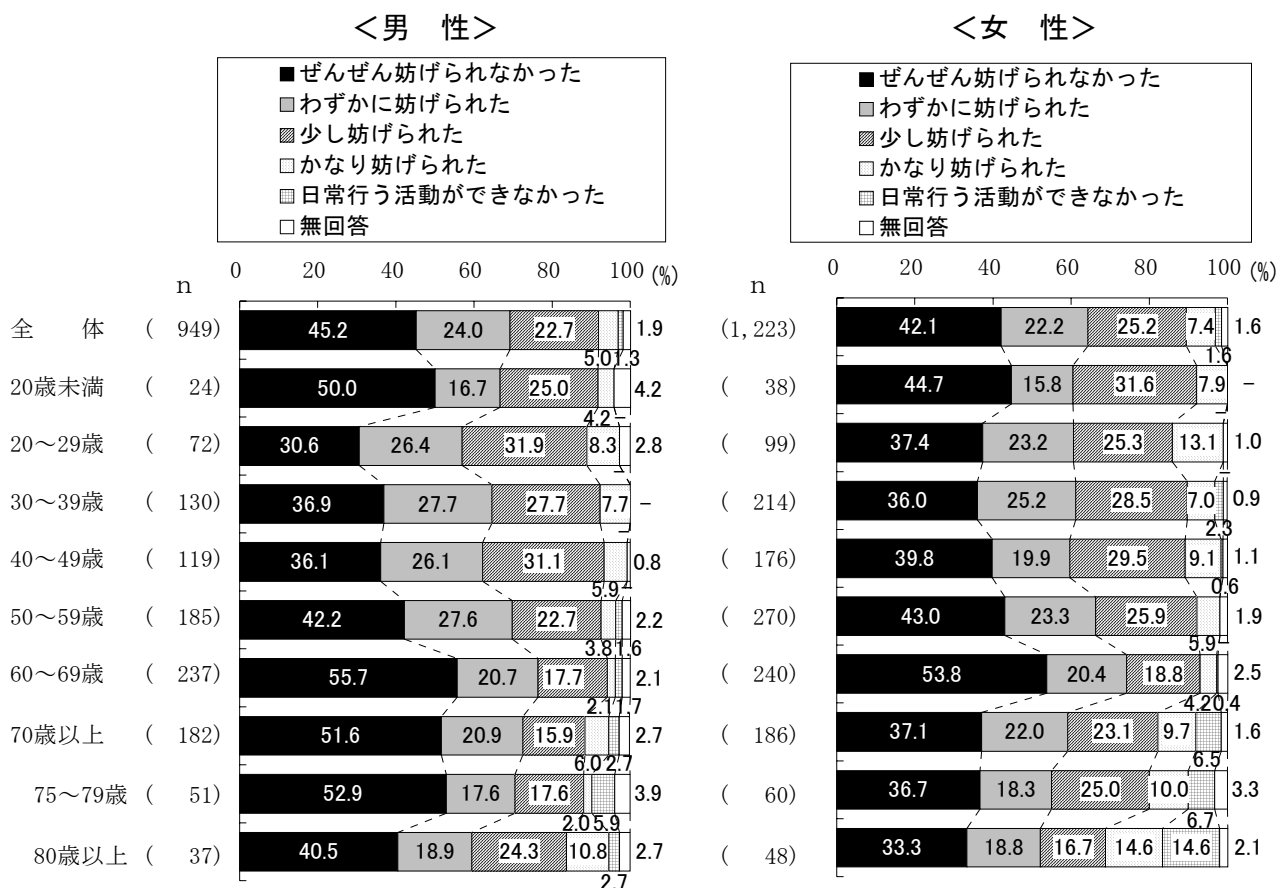
性別でみると、「ぜんぜん妨げられなかった」は、男性が45.2%、女性が42.1%で男性の方が3.1ポイント高くなっている。逆に、「妨げられた」は、男性が53.0%、女性が56.4%と、女性の方が3.4ポイント高くなっている。

性/年齢別でみると、「ぜんぜん妨げられなかった」は、男性では60～69歳が55.7%、女性でも60～69歳が53.8%で最も高くなっている。逆に、「妨げられた」としてみた場合、男性では20～29歳で66.6%、女性では30～39歳で63.0%と高くなっている。

問 8 心理的な理由で日常行う仕事が妨げられた有無（全体・性別）



問 8 心理的な理由で日常行う仕事が妨げられた有無（性/年齢別）

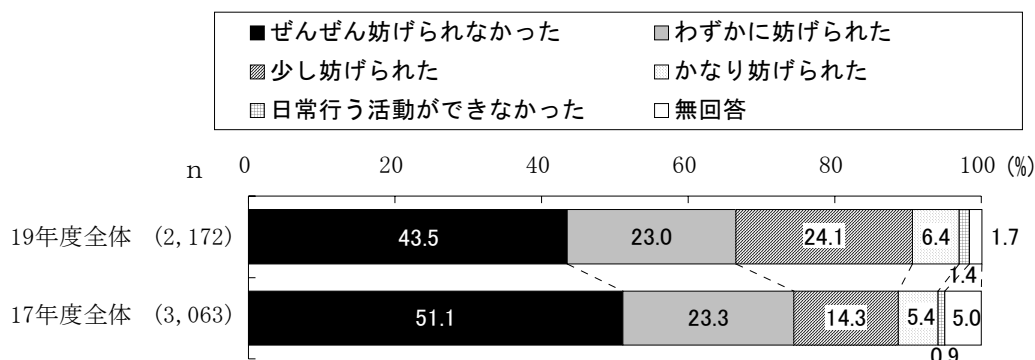


17年度調査結果と比較すると、全体では、「ぜんぜん妨げられなかった」（17年度：51.1%→19年度：43.5%）は7.6ポイント減少し、逆に、「《妨げられた》」（17年度：43.9%→19年度：54.9%）が11.0ポイント増加している。

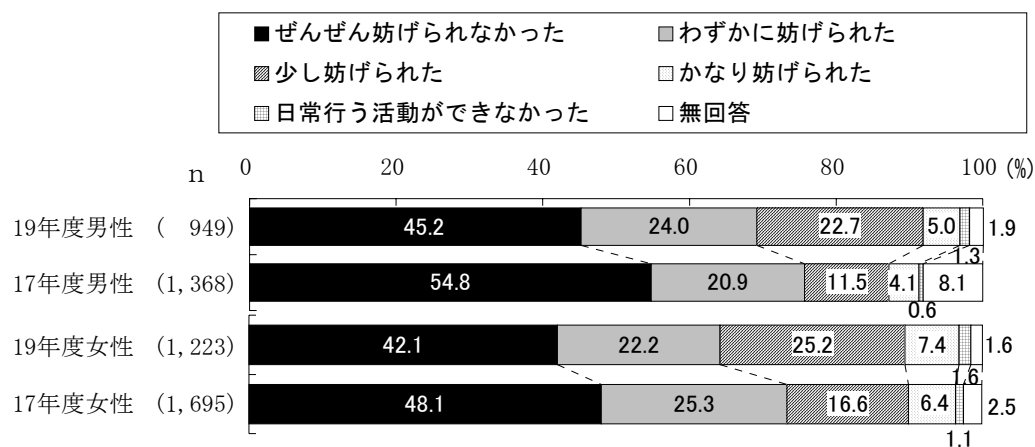
性別では、「ぜんぜん妨げられなかった」が、男性（17年度：54.8%→19年度：45.2%）で9.6ポイント、女性（17年度：48.1%→19年度：42.1%）で6.0ポイント減少している。逆に、「《妨げられた》」としてみた場合、男性（17年度：37.1%→19年度：53.0%）で15.9ポイント、女性（17年度：49.4%→19年度：56.4%）で7.0ポイント増加している。

【平成17年度調査との比較】

心理的な理由で日常行う仕事が妨げられた有無（全体）



心理的な理由で日常行う仕事が妨げられた有無（性別）



健康関連QOL指標のひとつSF8を基に計算した結果

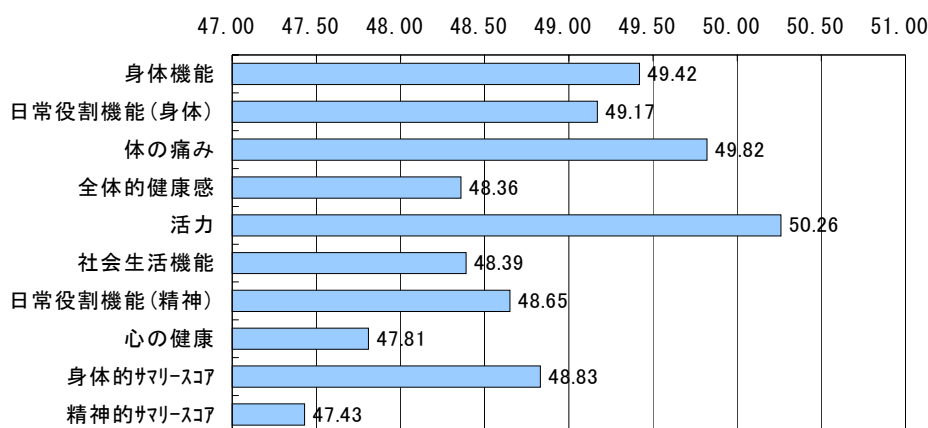
問1から問8の回答を用いて、健康関連QOL指標のひとつであるSF8の得点を算出した。SF8では健康を「身体機能」「日常役割機能(身体)」「体の痛み」「全体的健康感」「活力」「社会生活機能」「日常役割機能(精神)」「心の健康」の8つの領域(尺度)に分けており、その得点は国民標準値を50点としたときの、各自の相対的な点数である。また、8つの領域を身体的側面、精神的側面の2つに統合し、それぞれの総合指標として「身体的サマリースコア」「精神的サマリースコア」の点数で表している。

健康の8領域の各得点の平均値は、「活力」を除いて国民標準値平均である50点を下回っていた。

男女別にみると、50点を上回っている尺度は男性では「体の痛み」「活力」であり、女性では「活力」のみであった。50点を最も下回っている尺度は、男性は「全体的健康感」48.57点、女性では「心の健康」47.20点であった。「身体機能」「全体的健康感」「活力」以外は、男性の得点が女性より有意に高かった。

表 SF8の各尺度の得点

	男			女			合計			男女差 有意確率 p<0.05
	19年度 平均値	標準偏差	人数	19年度 平均値	標準偏差	人数	19年度 平均値	標準偏差	人数	
身体機能	49.62	7.41	943	49.26	7.03	1216	49.42	7.20	2159	
日常役割機能(身体)	49.57	7.24	945	48.85	7.32	1218	49.17	7.29	2163	*
体の痛み	50.84	8.29	939	49.03	8.47	1219	49.82	8.44	2158	*
全体的健康感	48.57	6.71	949	48.20	6.38	1220	48.36	6.53	2169	
活力	50.57	7.44	945	50.02	7.33	1219	50.26	7.38	2164	
社会生活機能	49.20	8.39	944	47.75	8.79	1222	48.39	8.65	2166	*
日常役割機能(精神)	49.11	6.94	931	48.30	7.61	1204	48.65	7.34	2135	*
心の健康	48.59	7.21	947	47.20	7.51	1222	47.81	7.41	2169	*
身体的サマリースコア	49.25	7.16	918	48.50	7.23	1187	48.83	7.21	2105	*
精神的サマリースコア	48.11	7.03	918	46.91	7.62	1187	47.43	7.39	2105	*



SF-8について

SF健康調査票は、健康関連QOL (Health Related Quality of Life) を測定するための、科学的な信頼性・妥当性を持つ尺度です。

健康関連QOLとは、医療評価のためのQOLとして、個人の健康に由来する事項に限定した概念として定義されています。

今回の評価に使ったSF-8は、大きな調査用として用いられています。

SF-8には、国民の性、年齢、地域、都市規模等の分布と同じくするようにサンプリングして行った全国調査から得られた、SF-8の平均値である国民標準値が設定されています。

ある対象から得られたSF-8の結果を評価する際に、国民標準値を基準にして、それよりどの程度高いか低いかを検討することで、その対象の健康状態を評価することができます。

平成17年度と平成19年度の各尺度の得点を比較すると、全ての尺度において平成19年度の得点が平成17年度より低く、「身体機能」を除く7尺度において有意差があった。総合指標である「身体的サマリースコア」と「精神的サマリースコア」をみると、いずれも平成19年度の方が得点は低く、精神的サマリースコアでは差が有意であった。

男女別にみると、男性の方が女性に比べて平成19年度に得点が有意に低下した項目が多かった。

表 平成17年度と19年度のSF8得点比較

	17年度			19年度			有意確率 p<.005	
	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差	人数		
男	身体機能	50.25	6.63	1252	49.62	7.41	943	*
	日常役割機能(身体)	50.77	6.19	1244	49.57	7.24	945	*
	体の痛み	51.39	8.33	1260	50.84	8.29	939	
	全体的健康感	49.89	6.86	1270	48.57	6.71	949	*
	活力	51.01	6.82	1267	50.57	7.44	945	
	社会生活機能	50.27	7.54	1258	49.20	8.39	944	*
	日常役割機能(精神)	50.64	6.10	1257	49.11	6.94	931	*
	心の健康	49.92	7.03	1262	48.59	7.21	947	*
	身体的サマリースコア	49.78	6.47	1214	49.25	7.16	918	
	精神的サマリースコア	49.42	6.95	1214	48.11	7.03	918	*
女	身体機能	49.46	7.20	1629	49.26	7.03	1216	
	日常役割機能(身体)	49.25	7.47	1645	48.85	7.32	1218	
	体の痛み	49.47	8.80	1664	49.03	8.47	1219	
	全体的健康感	48.86	6.94	1671	48.20	6.38	1220	*
	活力	50.21	6.76	1666	50.02	7.33	1219	
	社会生活機能	48.37	8.60	1651	47.75	8.79	1222	
	日常役割機能(精神)	49.36	7.08	1653	48.30	7.61	1204	*
	心の健康	47.98	7.35	1668	47.20	7.51	1222	*
	身体的サマリースコア	48.71	7.32	1580	48.50	7.23	1187	
	精神的サマリースコア	47.84	7.33	1580	46.91	7.62	1187	*
合計	身体機能	49.81	6.97	2881	49.42	7.20	2159	
	日常役割機能(身体)	49.90	6.99	2889	49.17	7.29	2163	*
	体の痛み	50.30	8.65	2924	49.82	8.44	2158	*
	全体的健康感	49.30	6.92	2941	48.36	6.53	2169	*
	活力	50.55	6.80	2933	50.26	7.38	2164	
	社会生活機能	49.19	8.21	2909	48.39	8.65	2166	*
	日常役割機能(精神)	49.91	6.70	2910	48.65	7.34	2135	*
	心の健康	48.81	7.28	2930	47.81	7.41	2169	*
	身体的サマリースコア	49.17	6.98	2794	48.83	7.21	2105	
	精神的サマリースコア	48.53	7.21	2794	47.43	7.39	2105	*

問9 ア 身長・体重・BMI

ここでは、現在の身長と体重の平均値を簡単に触れ、身長と体重の回答から算出したBMI〔体重(kg) ÷ (身長(m) × 身長(m))〕の分析へと進むこととする。

全体の平均身長は161.1cm、平均体重は58.6kgとなっている。それらを性/年齢別でみると、下表のとおりである。

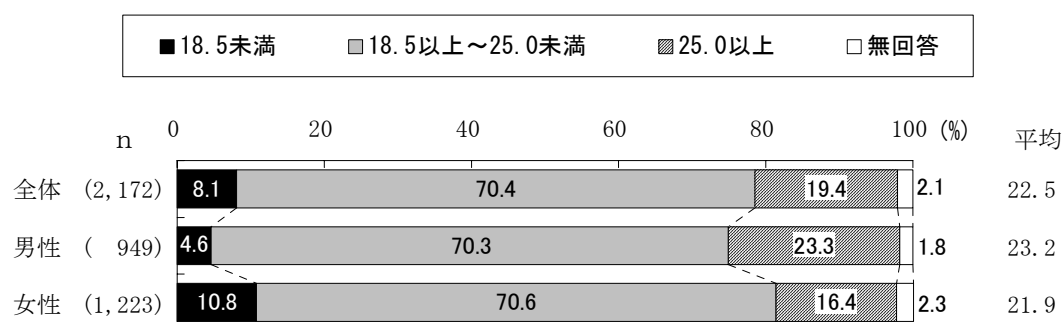
	<男性>		<女性>	
	平均身長 (cm)	平均体重 (kg)	平均身長 (cm)	平均体重 (kg)
全体	168.2	65.8	155.5	52.9
20歳未満	169.8	63.3	157.6	52.0
20～29歳	172.9	66.6	158.0	52.0
30～39歳	171.0	68.7	158.5	52.4
40～49歳	170.8	68.7	157.6	54.5
50～59歳	169.1	68.0	155.6	53.3
60～69歳	166.7	64.4	153.7	54.2
70歳以上	163.5	61.2	150.6	50.6
75～79歳	162.0	60.1	150.8	52.9
80歳以上	163.5	58.9	147.8	45.7

身長と体重の回答から算出したBMIについては、全体では、「18.5以上～25.0未満」が70.4%で最も高く、「25.0以上」が19.4%となっている。

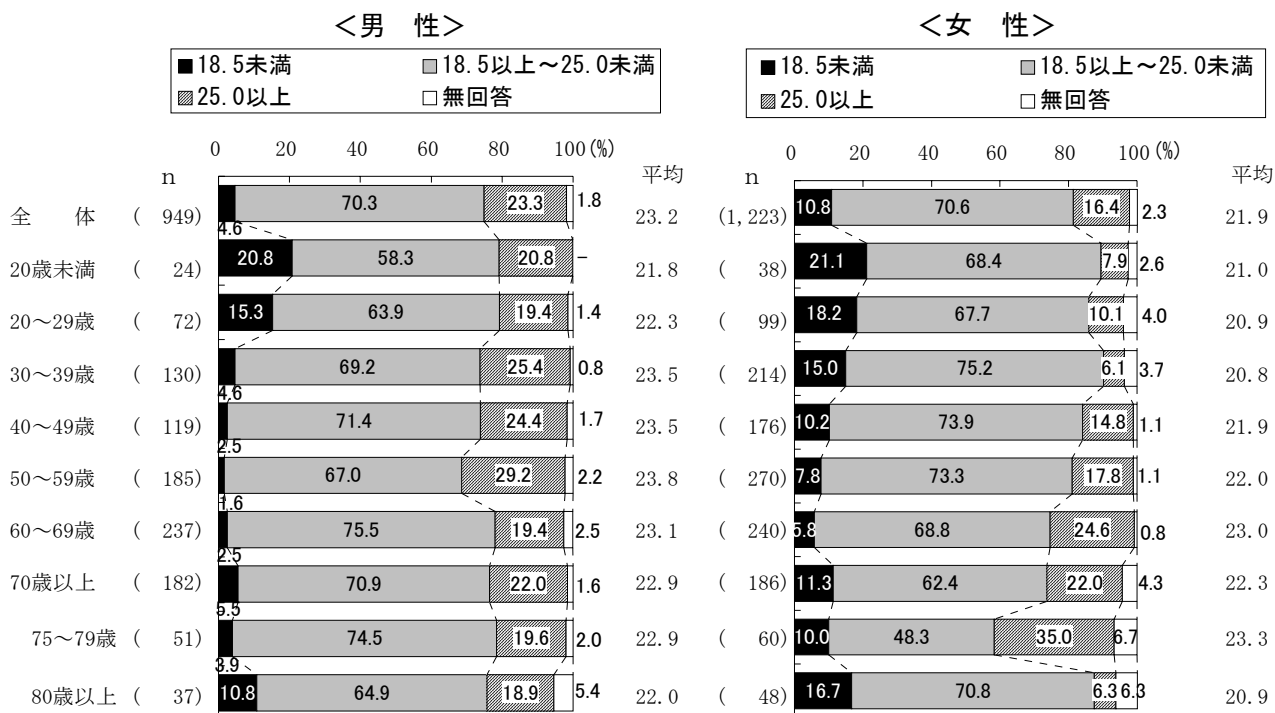
性別でみると、「18.5未満」は男性が4.6%、女性が10.8%で女性の方が6.2ポイント高くなっている。逆に、「25.0以上」は男性が23.3%、女性が16.4%で男性の方が6.9ポイント高くなっている。

性/年齢別でみると、「18.5未満」は、男性では20歳未満が20.8%、女性でも20歳未満が21.1%で最も高くなっている。「18.5以上～25.0未満」は、男女ともにいずれの年齢層でも高くなっており、「25.0以上」は、男性では50～59歳が29.2%、女性では60～69歳が24.6%で最も高くなっている。

問9ア 身長・体重・BMI (全体・性別)



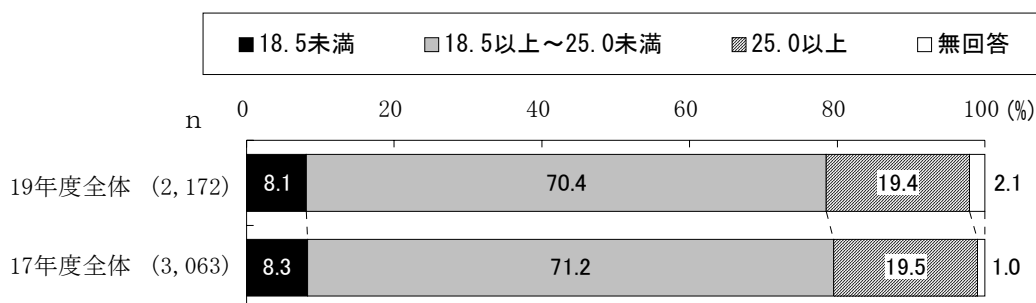
問9ア 身長・体重・BMI（性／年齢別）



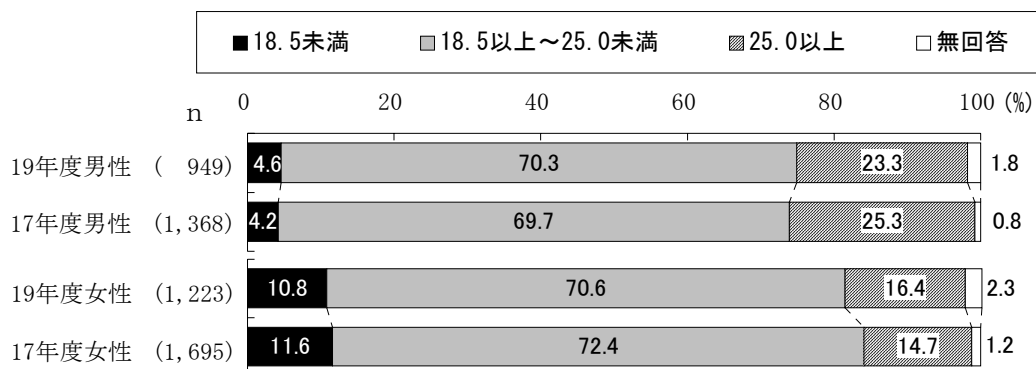
17年度調査結果と比較すると、全体、性別のいずれにおいても、特に大きな違いはみられない。

【17年度調査との比較】

身長・体重・BMI（全体）



身長・体重・BMI（性別）



問9 イ お腹まわり

全体では、「85cm未満」が67.4%で最も高く、「85～90cm未満」が20.6%、「90cm以上」が8.8%となっている。

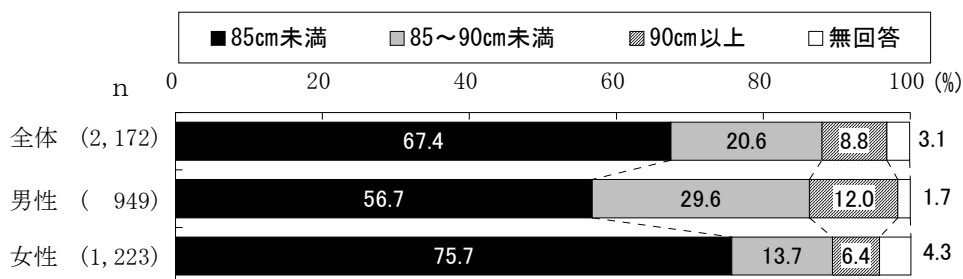
性別で見ると、「85cm未満」は男性が56.7%、女性が75.7%で女性の方が19.0ポイント高くなっている。逆に、「85～90cm未満」は男性が29.6%、女性が13.7%で男性の方が15.9ポイント高く、「90cm以上」でも男性が12.0%、女性が6.4%で男性の方が5.6ポイント高くなっている。

また、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の診断基準（男性85cm以上 女性90cm以上）と照らし合わせてみると、男性の41.6%、女性の6.4%は内臓脂肪の蓄積が疑われており、男性の方が女性よりも35.2ポイント高くなっている。

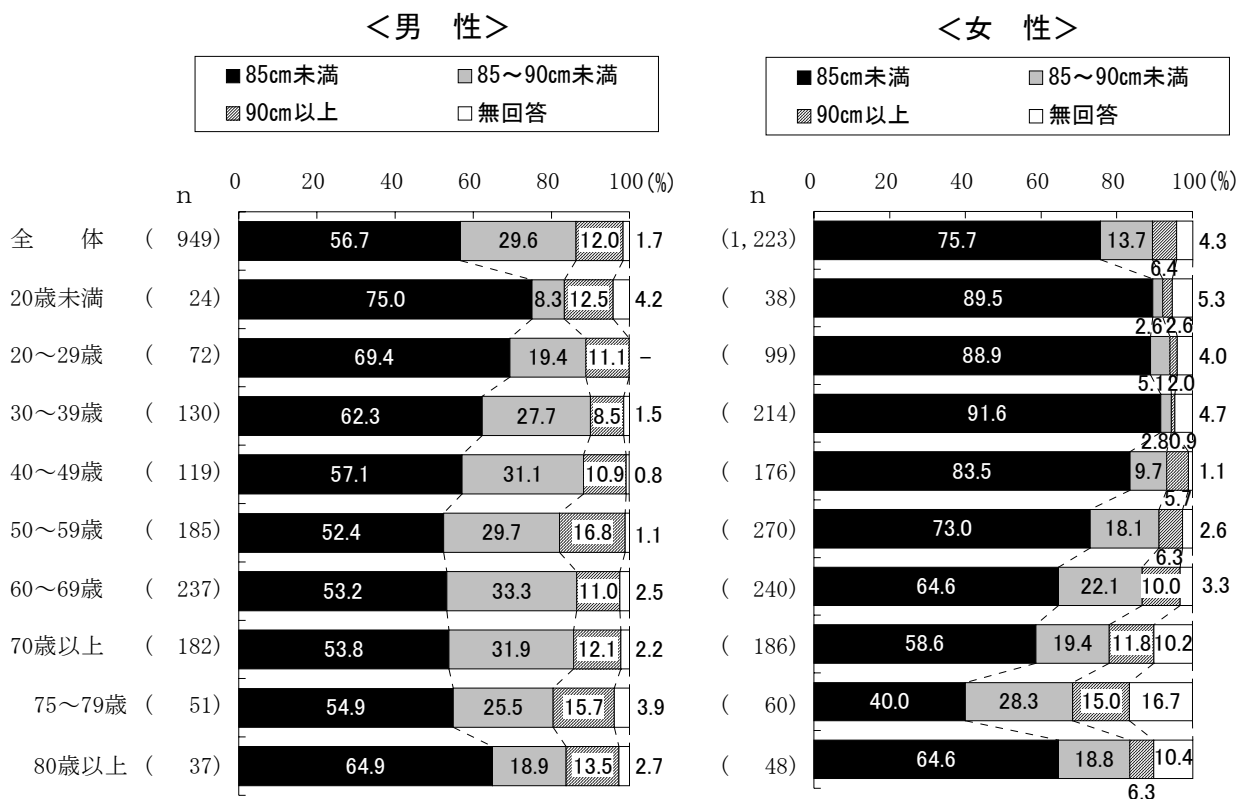
性/年齢別では、男性は《85cm以上》（「85～90cm未満」+「90cm以上」）について、女性は「90cm以上」について触れるものとする。

まず、男性では、《85cm以上》は50～59歳が46.5%で最も高く、60～69歳が44.3%、70歳以上が44.0%となっている。一方、女性では、「90cm以上」は70歳以上が11.8%で最も高く、60～69歳で10.0%となっている。

問9イ お腹まわり（全体・性別）



問9イ お腹まわり（性/年齢別）

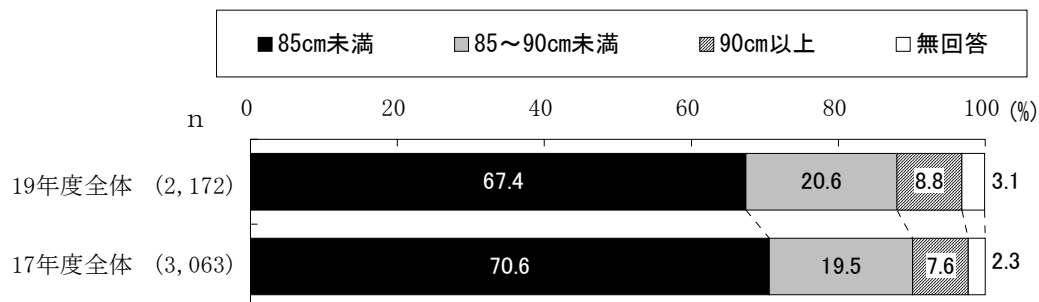


17年度調査結果と比較すると、全体では、「85cm未満」（17年度：70.6%→19年度：67.4%）が3.2ポイント減少している。

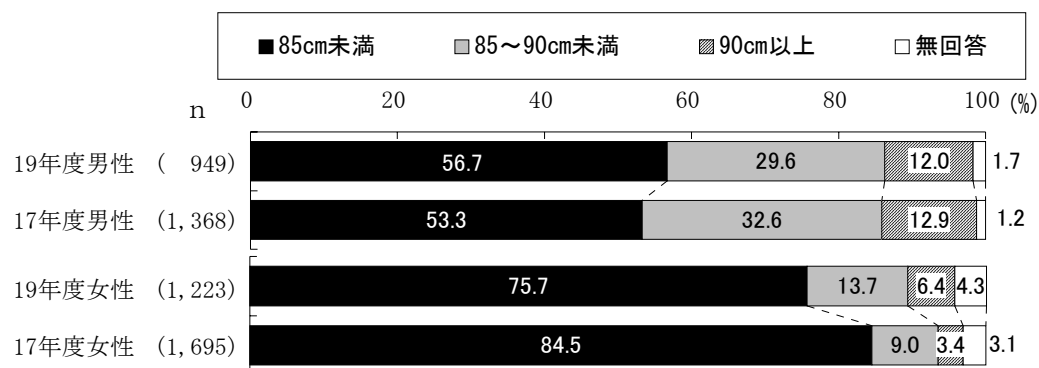
性別では、「85cm未満」が、男性（17年度：53.3%→19年度：56.7%）で3.4ポイント増加し、女性（17年度：84.5%→19年度：75.7%）で8.8ポイント減少している。また、男性の《85cm以上》（17年度：45.5%→19年度：41.6%）は3.9ポイント減少し、女性の「90cm以上」（17年度：3.4%→19年度：6.4%）は3ポイント増加している。

【平成17年度調査との比較】

お腹まわり（全体）



お腹まわり（性別）



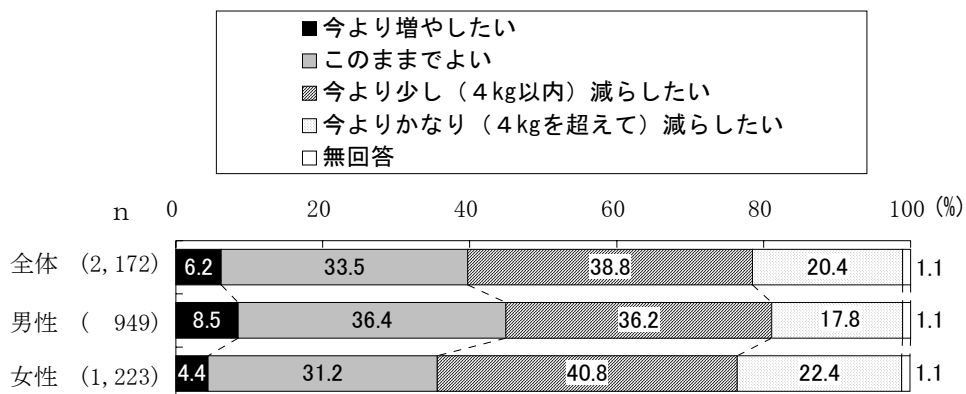
問9 ウ 現在の体重についての考え

全体では、「今より増やしたい」が6.2%、「このままでよい」が33.5%となっている。一方、「今より少し（4kg以内）減らしたい」が38.8%で最も高く、「今よりかなり（4kgを超えて）減らしたい」が20.4%で、これら2つを合わせると、《減らしたい》は59.2%となっている。

性別でみると、「今より増やしたい」は、男性が8.5%、女性が4.4%で男性の方が4.1ポイント高く、「このままでよい」でも、男性が36.4%、女性が31.2%で男性の方が5.2ポイント高くなっている。逆に、《減らしたい》は、男性が54.0%、女性が63.2%で女性の方が9.2ポイント高くなっている。

性/年齢別でみると、「今より増やしたい」は、男性の20歳未満で37.5%と最も高く、「このままでよい」は女性の70歳以上で47.3%となっている。《減らしたい》は、男性では30～39歳が66.9%、40～49歳が63.9%と高く、女性では40～49歳が73.9%、20～29歳が72.7%、30～39歳が71.0%などと高くなっている。

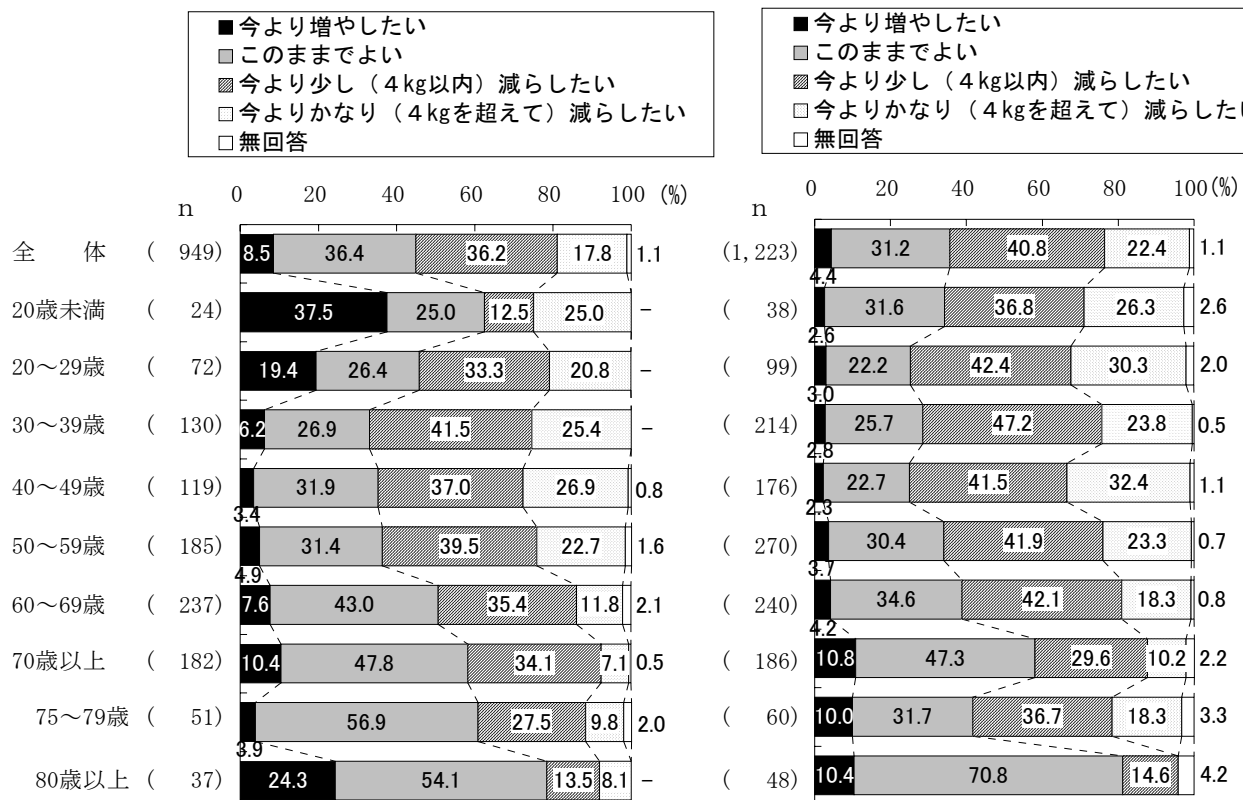
問9ウ 現在の体重についての考え（全体・性別）



問9ウ 現在の体重についての考え（性/年齢別）

<男性>

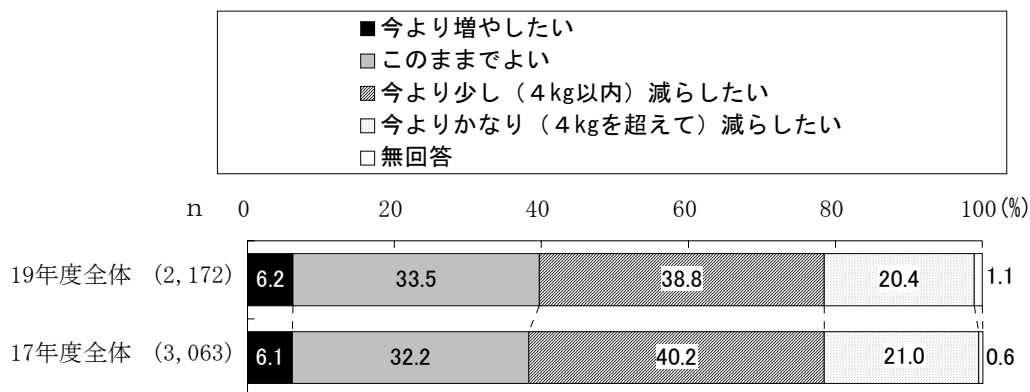
<女性>



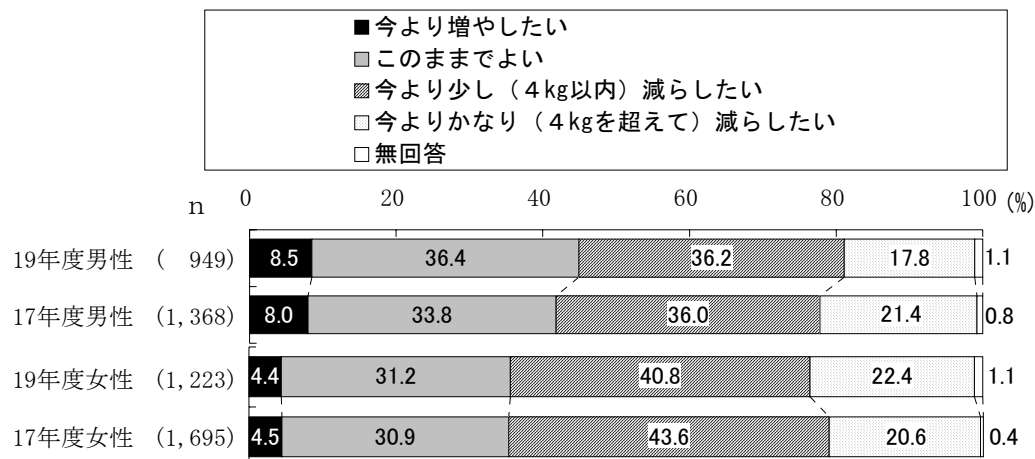
17年度調査結果と比較すると、全体では、特に大きな違いはみられない。
 性別では、「今よりかなり（4kgを超えて）減らしたい」が、男性（17年度：21.4%→19年度：17.8%）
 で3.6ポイント減少している。

【平成17年度調査との比較】

現在の体重についての考え（全体）



現在の体重についての考え（性別）



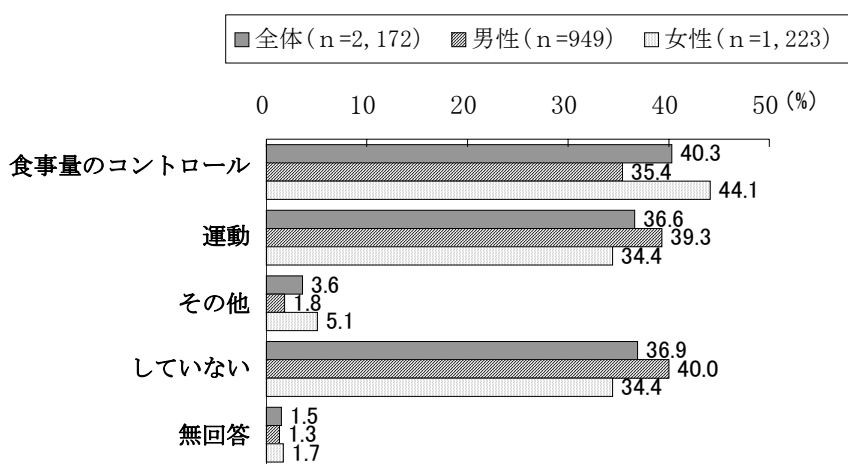
問10 体重管理のためにしていること（複数回答）

全体では、「食事量のコントロール」が40.3%で最も高く、「運動」が36.6%となっている。一方、「していない」が36.9%となっている。

性別でみると、「食事量のコントロール」は、男性が35.4%、女性が44.1%で女性の方が8.7ポイント高くなっている。「していない」は、男性が40.0%、女性が34.4%で男性の方が5.6ポイント高くなっている。また、「運動」でも、男性が39.3%、女性が34.4%で男性の方が4.9ポイント高い。

性/年齢別でみると、「食事量のコントロール」は、男性では70歳以上が40.7%、女性では70歳以上が51.1%で最も高くなっている。「運動」は、男性では20歳未満が54.2%、女性では60～69歳が43.8%で最も高くなっている。一方、「していない」は、男性では50～59歳が48.1%で最も高く、40～49歳が47.9%、30～39歳が47.7%となっている。女性では20歳未満が52.6%で最も高くなっている。

問10 体重管理のためにしていること（全体・性別）

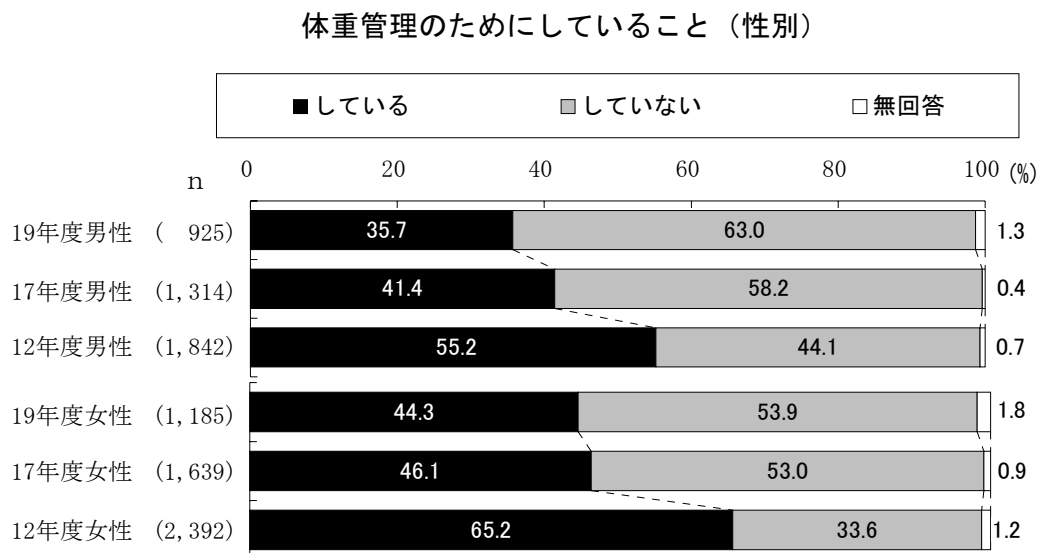
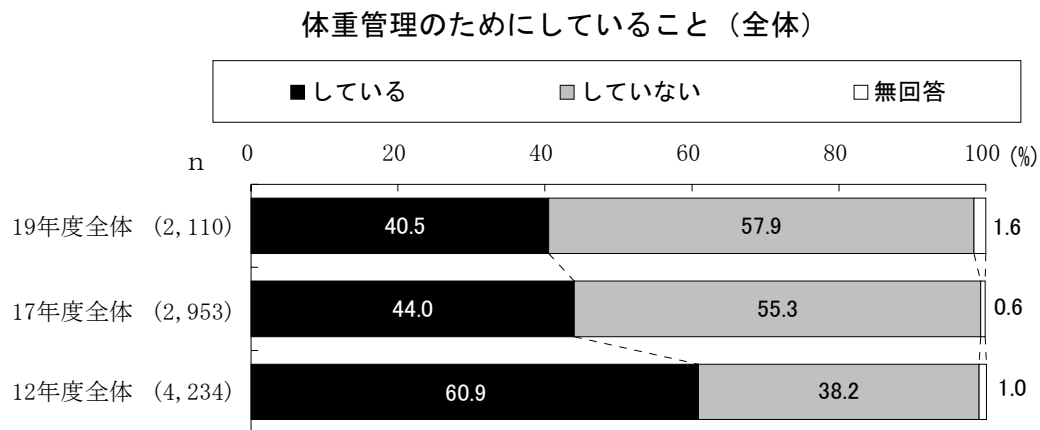


問10 体重管理のためにしていること（性/年齢別）

<男 性>							<女 性>						
	n	食事量のコントロール	運動	その他	していない	無回答		食事量のコントロール	運動	その他	していない	無回答	
全 体	949	336	373	17	380	12	1,223	539	421	62	421	21	
	100.0	35.4	39.3	1.8	40.0	1.3	100.0	44.1	34.4	5.1	34.4	1.7	
20歳未満	24	6	13	1	7	-	38	14	9	1	20	-	
	100.0	25.0	54.2	4.2	29.2	-	100.0	36.8	23.7	2.6	52.6	-	
20～29歳	72	25	24	2	32	1	99	30	30	6	47	1	
	100.0	34.7	33.3	2.8	44.4	1.4	100.0	30.3	30.3	6.1	47.5	1.0	
30～39歳	130	45	46	-	62	-	214	99	54	10	87	1	
	100.0	34.6	35.4	-	47.7	-	100.0	46.3	25.2	4.7	40.7	0.5	
40～49歳	119	35	41	-	57	1	176	77	61	10	62	2	
	100.0	29.4	34.5	-	47.9	0.8	100.0	43.8	34.7	5.7	35.2	1.1	
50～59歳	185	63	55	2	89	2	270	114	99	16	91	4	
	100.0	34.1	29.7	1.1	48.1	1.1	100.0	42.2	36.7	5.9	33.7	1.5	
60～69歳	237	88	106	6	79	6	240	110	105	10	67	3	
	100.0	37.1	44.7	2.5	33.3	2.5	100.0	45.8	43.8	4.2	27.9	1.3	
70歳以上	182	74	88	6	54	2	186	95	63	9	47	10	
	100.0	40.7	48.4	3.3	29.7	1.1	100.0	51.1	33.9	4.8	25.3	5.4	
75～79歳	51	22	24	1	15	2	60	32	25	2	12	3	
	100.0	43.1	47.1	2.0	29.4	3.9	100.0	53.3	41.7	3.3	20.0	5.0	
80歳以上	37	13	17	2	14	-	48	20	12	1	22	1	
	100.0	35.1	45.9	5.4	37.8	-	100.0	41.7	25.0	2.1	45.8	2.1	

12年度及び17年度調査結果と比較すると、全体、性別のいずれにおいても、「している」は調査ごとに減少しており、逆に、「していない」が増加している。

【平成12年度・17年度調査との比較】



※12年度調査との比較のため、17年度と19年度は15～19歳の回答者数を除く。

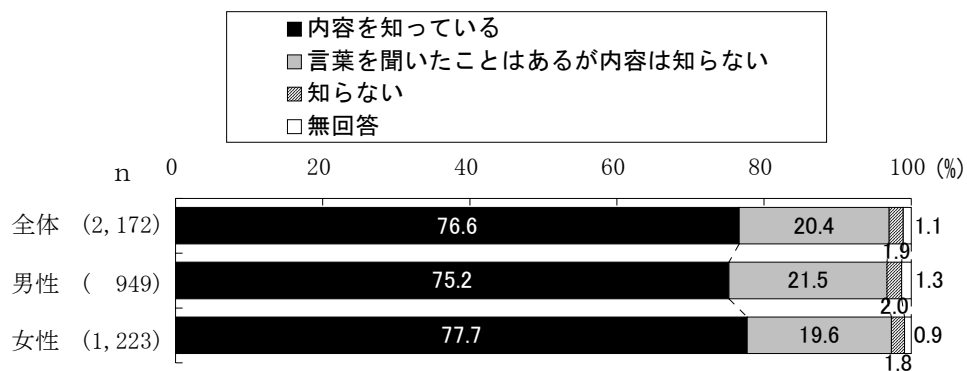
問11 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の認知

全体では、「内容を知っている」が76.6%で最も高く、「言葉を聞いたことはあるが内容は知らない」が20.4%となっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

性／年齢別でみると、「内容を知っている」は、男性では20歳未満が37.5%、女性でも20歳未満が50.0%で低くなっている。

問11 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の認知（全体・性別）



問11 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の認知（性／年齢別）

